

## 第Ⅲ章. 建築計画

---

1. 規模設定
2. 造成計画
3. 施設配置計画
4. 平面計画
5. 内部空間の計画
6. 構造計画

---

## 1. 規模設定

(1) 所要室の設定

(2) 所要室の規模設定

(3) 特別教室の教室数の検討

(4) 階数の設定

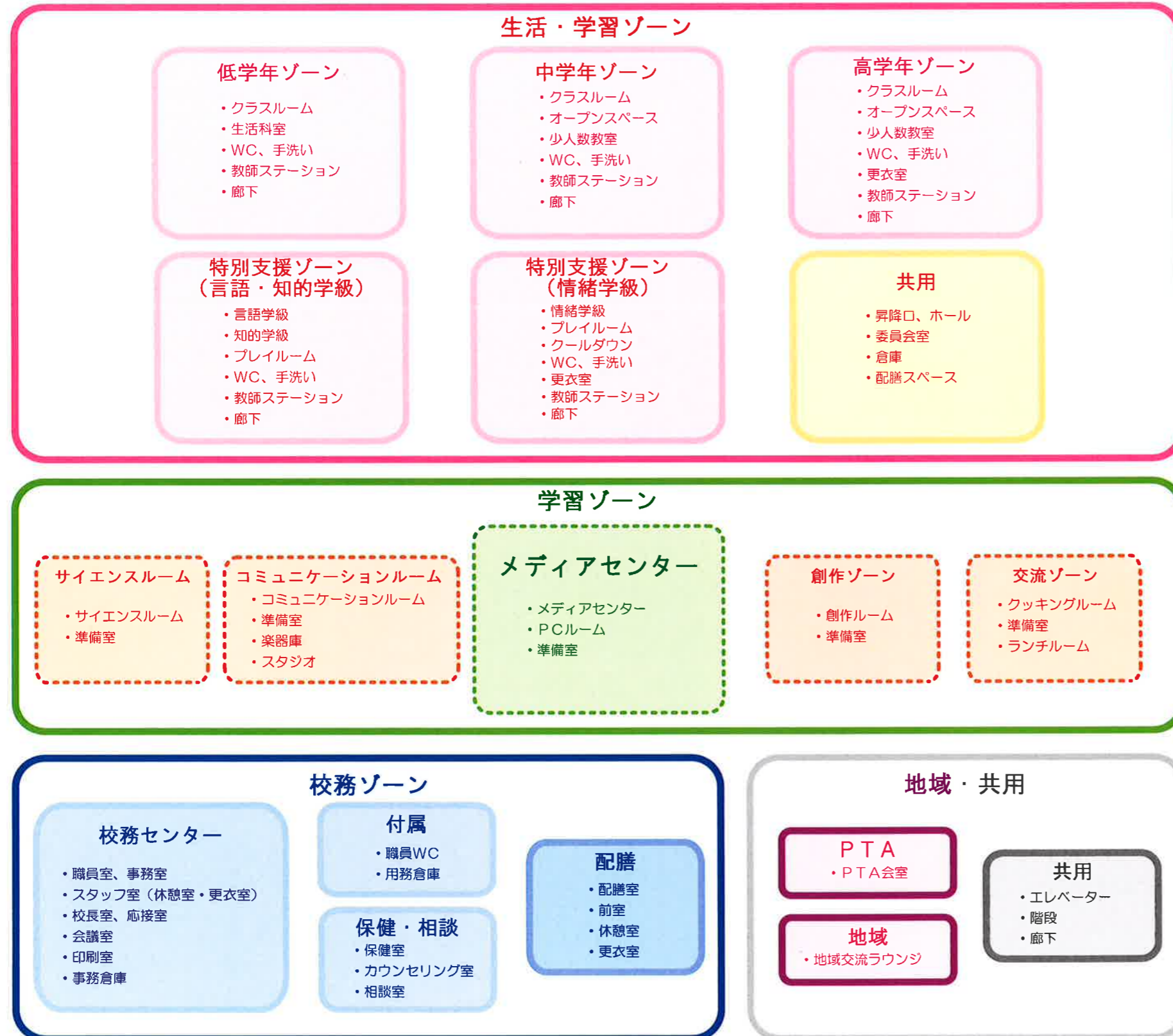
(5) 各施設の規模設定

# 1. 規模設定

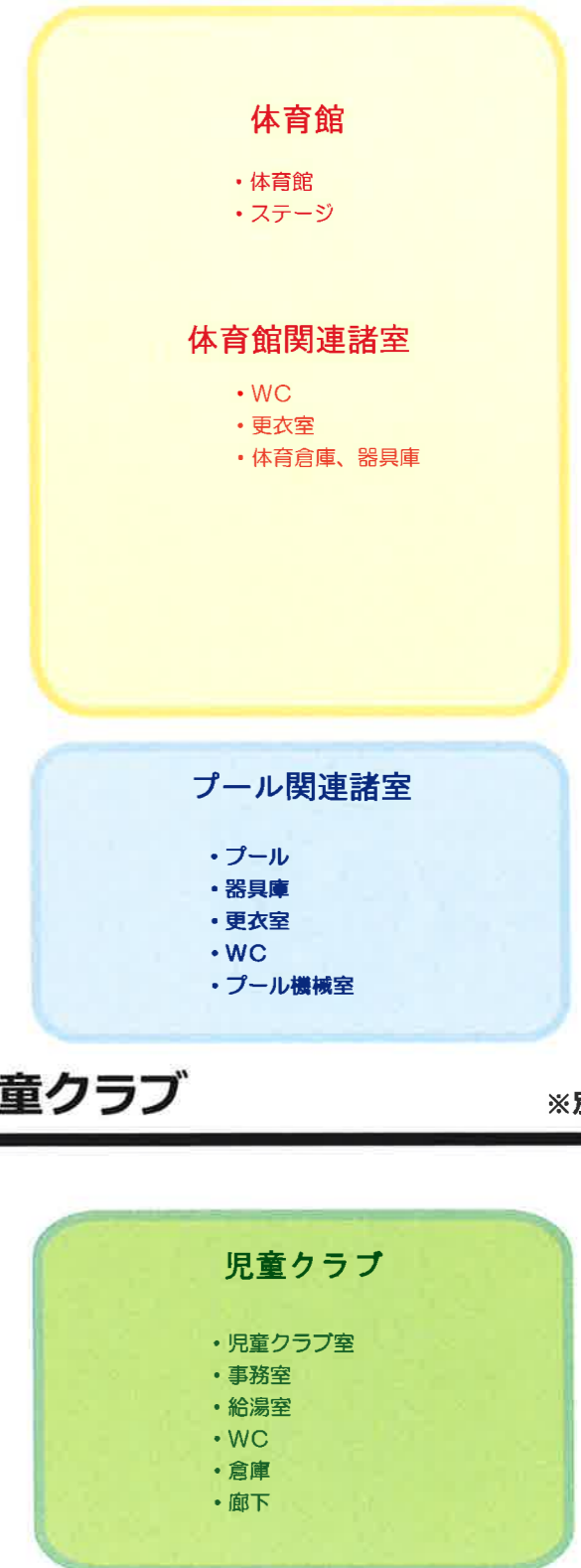
## (1) 所要室の設定

・ 本計画に必要な諸室を以下のように設定します。

### 小学校校舎



### 体育施設



(2) 所要室の規模設定-1

・ 前項で設定した所要室各々と規模は下表の通りです。

区分	対象	ゾーン	階	室名	室数	面積(m <sup>2</sup> )					備考
						1室あたり	小々計	小計	フロア計	ゾーン計	
小学校校舎	児童	生活・学習ゾーン	低学年ゾーン	クラスルーム	6	73	438	884	884	3,865	
				生活科室	2	73	146				
				WC・手洗い	4	50	200				
				教師ステーション	2	25	50				
			廊下		50	50					
			中学年ゾーン	クラスルーム	6	65	390	1,066	1,066		
				オープンスペース	6	41	246				
				少人数教室	2	65	130				
				WC・手洗い	4	50	200				
				教師ステーション	2	25	50				
			廊下		50	50					
			高学年ゾーン	クラスルーム	6	65	390	1,108	1,108		
		オープンスペース		6	41	246					
		少人数教室		2	65	130					
		WC・手洗い		4	50	200					
		更衣室		1	42	42					
		教師ステーション	2	25	50						
		廊下		50	50						
		特別支援教室	言語・知的学級	言語学級	1	30	30	245	485		
				知的学級	3	30	90				
				プレイルーム	1	30	30				
				WC・手洗い	1	50	50				
				教師ステーション	1	20	20				
廊下			25	25							
情緒学級	情緒学級		3	30	90	240					
	プレイルーム		1	30	30						
	クールダウン		1	15	15						
	WC・手洗い		1	50	50						
	更衣室		1	15	15						
	教師ステーション	1	15	15							
廊下		25	25								
共用	共用	昇降口・ホール	1	250	250	322	322				
		委員会室	1	32	32						
		倉庫	3	15	45						
		配膳スペース	2	25	50						
学習センター	メディアセンター	メディアセンター	1	200	200	307	307				
		PCルーム	1	81	81						
	サイエンスルーム	サイエンスルーム	1	81	81	107	107				
		準備室	1	26	26						
	コミュニケーションゾーン	コミュニケーションルーム	1	81	81	172	172				
		準備室	1	26	26						
		楽器庫	1	50	50						
		スタジオ	1	15	15						
	創作ゾーン	創作ルーム	1	81	81	107	107				
		準備室	1	26	26						
	交流ゾーン	クッキングスペース	1	75	75	266	266				
		準備室	1	26	26						
ランチルーム		1		165							

(2) 所要室の規模設定-2

小学校校舎	先生・管理	校務ゾーン	校務センター	職員室・事務室	1	100	100	377	467	719	フリーアドレス方式	
				スタッフ室	1	30	30					
				休憩室	2	20	40					
				校長室・応接室	1	45	45					
				会議室	1	100	100					
				印刷室	1	32	32					
				事務倉庫	1	30	30					
				職員トイレ	2	30	60					
				用務倉庫	1	30	30					
				90								
保健・相談	保健室	1	108	108	168	168						
	カウンセリング室	2	15	30								
	相談室	2	15	30								
配膳室	配膳室	1		50	84	84						
	前室	1	10	10								
	休憩室	1	10	10								
	更衣室	2	7.2	14								
地域共用	地域	地域交流ラウンジ	1	50	50	82						
		PTA会室	1	32	32							
	エレベータ	1	10	10								
廊下・階段	1		1,000	1,010	1,010	1,010	延べ床面積の25%					
6,635												
体育施設	学校開放対象	体育ゾーン	体育館	体育館	1	1000	1,000	1,305	2,055	2,055		
				体育館	1	100	100					
				調整室	1	15	15					
				ミーティング室	1	50	50					
				体育館関連諸室	2	10	20					
				更衣室	2	30	60					
				トイレ	2	30	60					
				体育倉庫・器具庫	2	30	60					
				プール	1	600	600					750
				器具庫	2	30	60					
更衣室	2	15	30									
トイレ	2	15	30									
プール関連諸室	1	30	30									

### (3) 特別教室の教室数の検討

#### 1) 学校全体での各教科の週間平均授業時間数

##### a. 前提条件

1 学年 3 クラスとします。

##### b. 授業が重複する可能性の検討

- ・ 特別教室の必要室数を算出するために、学校全体で行われている授業がどの程度重複する可能性があるかを検討します。
- ・ 1 週間に学校全体で行われる各教科の延べ授業時間数を、週間授業時間数（コマ数）27時間で除した値を**重複率**とよぶこととします。この重複率が1を上回る場合、授業が重複する場合は生じ、2を上回ると常に重複していることとなります。
- ・ 1、2年生は総合教室型で授業を行うものとし、重複率の算定に加えないものとします。

##### c. 重複率

区分	クラス数 /学年	各教科の延べ授業時間数									道徳	特別活動	英語	総合的な学習	総授業時間数
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育					
第1学年	3	27.0	-	12.0	-	9.0	6.0	6.0	-	9.0	3.0	3.0	-	-	75.0
第2学年	3	27.0	-	15.0	-	9.0	6.0	6.0	-	9.0	3.0	3.0	-	-	78.0
計	6	54.0	0.0	27.0	0.0	18.0	12.0	12.0	0.0	18.0	6.0	6.0	0.0	0.0	153.0
第3学年	3	21.0	6.0	15.0	7.8	-	5.1	5.1	-	9.0	3.0	3.0	-	6.0	81.0
第4学年	3	21.0	7.8	15.0	9.0	-	5.1	5.1	-	9.0	3.0	3.0	-	6.0	84.0
第5学年	3	15.0	8.7	15.0	9.0	-	4.2	4.2	5.1	7.8	3.0	3.0	3.0	6.0	84.0
第6学年	3	15.0	9.0	15.0	9.0	-	4.2	4.2	4.8	7.8	3.0	3.0	3.0	6.0	84.0
計	12	72.0	31.5	60.0	34.8	0.0	18.6	18.6	9.9	33.6	12.0	12.0	6.0	24.0	333.0
重複率		2.7	1.2	2.2	1.3	0.0	0.7	0.7	0.4	1.2	0.4	0.4	0.2	0.9	

※授業時間数→文部省の年間回数+年間の運営数  
 ※27年度現在の授業時間数を基にした集計です。

上表から以下のことがわかります。

- ① 理科室が1室の場合、約25%程度理科室を使用できない授業が発生します。
- ② 家庭科の授業を常に家庭科室で行うとしても、40%しか使用されません。
- ③ 体育は低学年と中高学年を合わせると、常に2つのクラスが授業を行っている状態になります。
- ④ 音楽と英語の重複率を合わせても0.9となります。

##### d. 特別教室の教室の設定

- ① 理科室はサイエンスルーム1・2の2室とします。
- ② 家庭科室は40%ほどしか利用されないの、調理実習に特化したクッキングスペースとし、被服等の授業は学年ゾーンのオープンスペース等で対応します。
- ③ 体育館は2分割して使用できるものとします。
- ④ 音楽と英語の重複率を合わせても0.9なので、音楽室と英語教室は1つの教室を兼用するものとします。

#### (4) 階数の検討

##### 1) 階数規模の比較

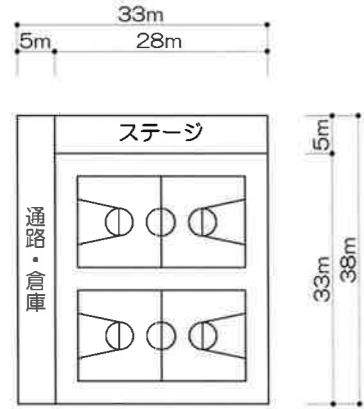
比較項目		平屋建て	2階建て	3階建て	
教育方針との整合性	小中連携を推進する	社会性の育成	○ 1フロアに全学年があるので異学年交流が誘発されやすい。(平面的に広すぎると逆効果になる可能性もある)	○ 1フロアに多くの学年があるので異学年交流が誘発されやすい。	△ フロアが3つに分かれる為、日常的に関わりづらい学年が生まれる。
		異学年交流の促進	○ 上記と同様の理由	○ 上記と同様の理由	△ 上記と同様の理由
		中一ギャップの解消	—	—	—
		専科制の重視	○ 普通教室と特別教室を1フロアに配置でき、日常的に教科の環境に触れられる。	○ 普通教室から特別教室への距離が比較的近くでき、日常的に教科の環境に触れられる。	△ 普通教室から特別教室への距離が比較的遠くなる可能性がある。
	学習・安心・生活・安全に子どもたちができる	日常安全性の確保	◎ 全ての子どもたちが地面に近く、安全である。	○ 子どもたちの居場所が比較的地面の近くにあるので、安全である。	△ 子どもたちの居場所が高くなるので、危険性が高まる。
		防犯安全性の確保	—	—	—
		防災安全性の確保	◎ 地震の揺れが抑えられ、耐震安全性が比較的高くなる。全て避難階(1階)になる。	○ 地震の揺れが抑えられ、耐震安全性が比較的高くなる。避難階(1階)への避難がしやすい。	△ 避難階への距離が遠くなる。
	子どもたちが群れ交流する空間	学校としての秩序の形成	—	—	—
		子どもたちの生活空間の充実	○	○	○
		地域の子どもの交流の場	○	○	○
	地域の交流の場	地域への施設提供	○ 地域開放施設を含め、学校施設が全て1階にあるので、学校運営上または管理上、問題ない。	○ 地域開放施設はほとんど1階に配置でき、学校運営上または管理上、あまり問題ない。	△ 地域開放施設の位置によっては、学校運営や管理の上で、難しくなる場合がある。
		地域住民との連携	○ 学校が地域と近い位置にあり、連携が図りやすい。	○ 学校が地域と比較的近い位置にあり、連携が図りやすい。	△ 学校が地域と遠くなり、連携が図りにくい場所ができる。
防災拠点(避難施設)		◎ 学校運営に支障をきたさない部屋は、全て避難施設として利用できる。	○ 学校運営に支障をきたさない部屋は、ほとんど避難施設として利用できる。	△ 学校運営に支障をきたさない部屋でも、避難施設として利用できない部屋ができる可能性がある。	
国際社会に貢献する人育て フレキシブルな学習空間	英語教育の重視	—	—	—	
	メディア・リテラシー教育の充実	◎ 普通教室とメディアセンターを1フロアに配置でき、日常的に情報環境に触れられる。	○ 普通教室とメディアセンターを近くに配置でき、日常的に情報環境に触れられる。	△ メディアセンターの近くに配置できない普通教室ができてしまう可能性がある。	
	教科を超えた学習を誘発する環境形成	◎ 1フロアに普通教室、特別教室を関連づけて配置することができる。	○ 1フロアに普通教室、特別教室を関連づけて配置することができる。	△ 普通教室、特別教室のフロアが分散される。	
	子どもの成長に合わせた学習環境	—	—	—	
	地域の理解を深める環境	—	—	—	
物理的な問題(土地利用)	△ 建築面積が約7500㎡になり、十分なグラウンド面積を確保できない。	○ 建築面積が4000㎡強になり、十分なグラウンド面積を確保できる。	◎ 建築面積が約3000㎡強となり、十分なグラウンド面積を確保できる。		
建設コスト	△ 建築面積が巨大になり、基礎の面積が多くなるため、建設コストが多くなる。	○ 建築面積が大きくなり、基礎の面積が多くなるため、建設コストが比較的少なくなる。	◎ 建築面積が小さく抑えられ、基礎の面積が少なくなるので、建設コストが比較的少なくなる。		
総合評価	△ 教育方針との整合性は十分図れるが、建築面積が巨大になり、土地利用の面でも経済的な面でも不利なことが多い。	◎ 教育方針との整合性が図れ、建築面積も大きすぎず、土地利用・経済上も妥当な範囲である。	△ 土地利用の面でも経済的な面でも有利であるが、教育方針の整合性が図りにくい。		

##### 2) 考察

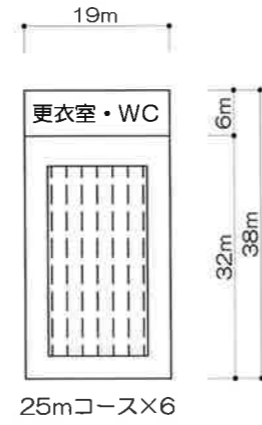
- ・ 教育方針との整合性では平屋建てが有利ですが、グラウンドが十分に確保できず、経済面でも建設コストがかさむという大きな課題があります。一方、2階建ては3階建てに比べて教育方針との整合性が十分図れ、土地利用・経済面でも妥当な範囲であると考えられるため、本計画は2階建てを基本とします。

(5) 各施設の規模設定

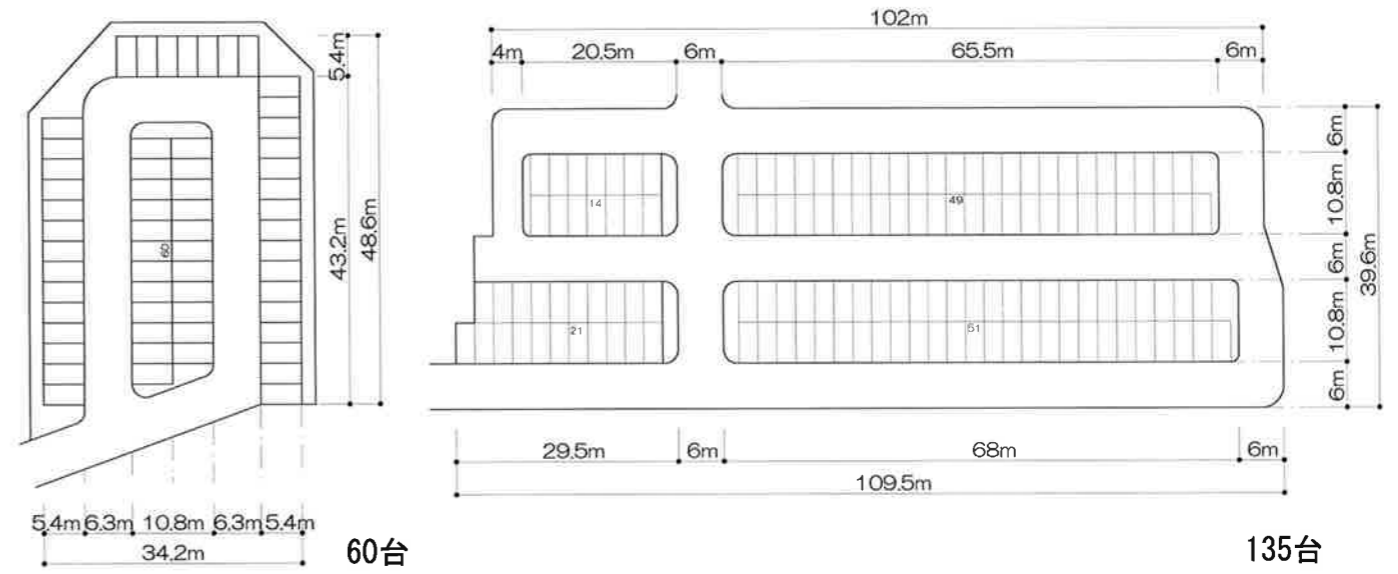
1) 体育館 (バスケットボールコート2面)



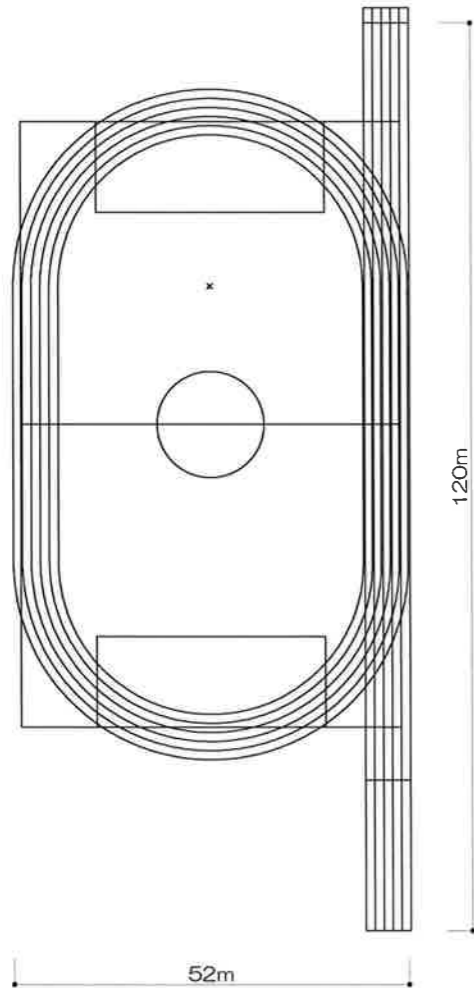
2) プール (25m 6コース)



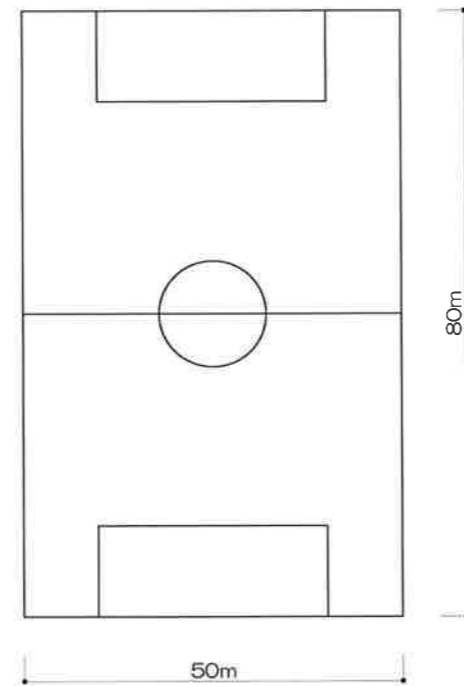
3) 駐車場 (60 + 135台)



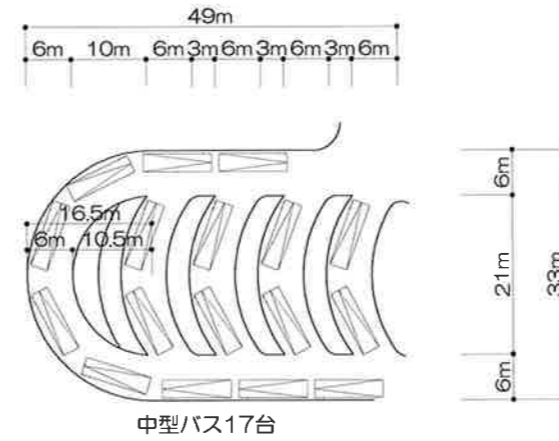
4) 200mトラック (120m直走路)



5) サッカーコート (小学生用)



6) バスロータリー (中型バス 17台)





---

## 2. 造成計画

- (1) 造成計画の考え方
- (2) 洪水調整計画の考え方
- (3) 緑地計画の考え方
- (4) 土量計算平面図
- (5) 造成横断図

## 2. 造成計画

### (1) 造成計画の考え方

#### 1) 計画条件

- 敷地中央部のなだらかな丘陵地を切土して校舎や運動場を整備した周辺を盛土し、計画区域内での土量バランスを可能な限り図るものとします。それを前提として雨水・汚水の排水、通路勾配の確保を考慮して、造成計画高を決定します。

#### 2) 計画高の設定

##### a. アクセス道路による設定

- 計画区域の西側を走る県道大竹・鉾田線を接道位置として進入道路高を設定し、丘陵部の運動場の整地高まで、道路勾配を*i*=7.0%程度に設定したなかで、駐車場、運動場、回転広場へと各ゾーンへアクセスする道路計画高より整地計画高を設定します。

##### b. 調整池計画による設定

- 調整池の位置は、県道大竹・鉾田線の横断函渠を流末排水路のルートとして決定しました。そのため横断函渠の周辺地盤高を池底高と設定し、V字の地形を利用しながら築堤を行ない、池周辺を切土や大型ブロック積を設置しての施設構造となります。池底からの高低差を条件に周囲の進入道路や回転広場の法勾配より配置計画および計画高の設定を行ないます。また、調整池造成時に発生する残土は搬出することを前提とします。

#### 3) 法面処理

- 法面処理の構造は、以下に示す数値を採用します。なお、数値は、法面土質が土砂等の一般的な場合のものであり、今後の計画区域での詳細な地質調査結果によっては、これらの緒元を見直すことも考えられます。

項目		茨城県開発技術基準	採用値
盛土法面	法面勾配	・35度(約 1:1.5)以下	・1:1.8
	小 段	・法高 5m ごとに幅 1.0~2.0m 程度の小段を設置。	・法高 5m ごとに幅 1.5m の小段を設置。
	そ の 他	・高さが 15m 以上の盛土、又は 15m 未満でも地下水等のため崩壊の危険性がある場合は盛土内の地下水を排除するためサンドマット等を施す。	・高さが 15m 以上の場合ジオテキスタイル系排水層を設置する。
切土法面	法面勾配	・35%以下	・1:1.5
	小 段	・法高 5m ごとに幅 1.0~1.5m の小段を設置。	・法高 5m ごとに幅 1.5m の小段を設置。
	そ の 他	----	----

#### 4) 計画土量

- 20mメッシュの交点法の集計により、土量変化率を下表により0.9と設定し計算しました。

土量の変化率

名称		L	C
岩または石	硬岩	1.65~2.00	1.30~1.50
	中硬岩	1.50~1.70	1.20~1.40
	軟岩	1.30~1.70	1.00~1.30
	岩塊・玉石	1.10~1.20	0.95~1.05
礫まじり土	礫	1.10~1.20	0.85~1.05
	礫質土	1.10~1.30	0.85~1.00
	固結した礫質土	1.25~1.40	1.10~1.30
砂	砂	1.10~1.20	0.85~0.95
	岩塊・玉石まじり砂	1.15~1.20	0.90~1.00
普通土	砂質土	1.20~1.30	0.85~0.95
	岩塊・玉石まじり砂質土	1.40~1.45	0.90~1.00
粘性土等	粘性土	1.20~1.45	0.85~0.95
	礫まじり粘性土	1.30~1.40	0.90~1.00
	岩塊・玉石まじり粘性土	1.40~1.45	0.90~1.00

(L:ほぐした場合の変化率、C:締め固めた場合の変化率)

- 土量計算結果は以下の通りです。

切土量CV = 21,000m<sup>3</sup> (地山)

盛土量BV = 20,400m<sup>3</sup> (伐開などの踏み込み沈下量として30cmを考慮)

換算土量 (BV/0.9) = 22,700m<sup>3</sup>

建築残土量 = 1,000m<sup>3</sup>

残土量 = -700m<sup>3</sup>

- 調整池残土量 = 2,200m<sup>3</sup>

- 上記の通り、造成工事により700m<sup>3</sup>の土が不足、調整池造成工事により2,200m<sup>3</sup>の残土が発生します。

## (2) 洪水調整計画の考え方

### 1) 流末排水水路の設置

- ・ 本計画区域は、利根川水系長茂川の終点部であり、鉾田土地改良区の排水路が流末になります。そのため、直前の放流管を既存扱いとして、調整池までの区間を流末排水路（改修）としてルートを設定します。
- ・ また、計画基準は、「茨城県宅地開発基準」および「茨城県林地開発許可制度実施規則」に準拠し、地区内で雨水を抑制し、流末排水路まで排水路の新設を行ないます。林地開発行為の適用により、抑制量に影響する規格基準は降雨強度式が5年確率から、30年確率へと大きくなります。

### 2) 調整池計画の緒元

① 流域面積  $A=4.9\text{ha}$

② 対象降雨強度  $I = \frac{1402}{T^{0.7} + 3.48}$  水戸式降雨強度公式 30年確率

※水戸降雨強度式による数値表 (トーマス法、T14年～S59年、N=60)

確率	時間(分)	10	20	30	40	60	120	180	240	360	720	1440	日雨量
1/1.5	$r = \frac{797}{T^{0.7} + 5.68}$	70.51	52.65	43.08	36.92	29.26	19.00	14.54	11.96	9.02	5.51	3.33	84.0
1/2	$r = \frac{973}{T^{0.7} + 6.36}$	81.20	61.51	50.73	43.70	34.85	22.83	17.53	14.45	10.93	6.69	4.05	102.0
1/3	$r = \frac{1182}{T^{0.7} + 6.89}$	94.46	72.31	59.97	51.85	41.55	27.40	21.10	17.42	13.20	8.10	4.91	124.0
1/5	$r = \frac{1411}{T^{0.7} + 7.63}$	106.46	82.58	69.00	59.95	48.34	32.15	24.85	20.57	15.63	9.62	5.85	146.0
1/6	$r = \frac{1494}{T^{0.7} + 7.82}$	111.13	86.47	72.39	62.97	50.85	33.90	26.23	21.72	16.51	10.18	6.18	157.0
1/8	$r = \frac{1640}{T^{0.7} + 8.09}$	119.59	93.46	78.44	68.35	55.32	36.98	28.66	23.75	18.07	11.15	6.78	176.0
1/10	$r = \frac{1765}{T^{0.7} + 8.22}$	127.50	99.84	83.89	73.16	59.27	39.68	30.77	25.51	19.42	11.99	7.29	193.0
1/15	$r = \frac{1129}{T^{0.7} + 2.82}$	151.24	110.74	90.42	77.70	62.15	41.53	32.48	27.20	21.09	13.55	8.64	224.0
1/20	$r = \frac{1261}{T^{0.7} + 3.24}$	159.92	118.79	97.71	84.35	67.84	45.68	35.85	30.07	23.38	15.06	9.62	245.0
1/30	$r = \frac{1402}{T^{0.7} + 3.48}$	172.55	129.15	106.85	92.29	74.47	50.35	39.58	33.25	25.87	16.69	10.68	280.0
1/50	$r = \frac{1607}{T^{0.7} + 3.87}$	188.72	142.90	118.72	103.14	83.62	56.91	44.88	37.76	29.45	19.05	12.20	316.0
1/70	$r = \frac{1657}{T^{0.7} + 3.43}$	205.20	153.35	126.53	109.44	88.25	59.61	46.85	39.34	30.61	19.74	12.62	354.0
1/80	$r = \frac{1720}{T^{0.7} + 3.51}$	210.91	158.01	130.54	113.01	91.21	61.70	48.53	40.76	31.73	20.47	13.10	365.0
1/100	$r = \frac{1916}{T^{0.7} + 4.42}$	211.36	162.44	136.02	118.78	96.93	66.56	52.70	44.44	34.76	22.56	14.40	378.0
1/200	$r = \frac{2240}{T^{0.7} + 5.09}$	230.09	179.70	151.80	133.33	109.60	76.04	60.50	51.16	40.15	26.17	16.85	435.0

③ 下流河川の流下能力  $Q = 0.336\text{m}^3/\text{s}$  HP  $\phi 600$   $i=3.0\%$   $V=1.189\text{m}/\text{s}$  として設定

④ 比流量  $Qa = 0.336\text{m}^3/\text{s} \div 3.6\text{ha} = 0.093\text{m}^3/\text{s}/\text{ha}$

⑤ 開発後の流出係数  $C=0.85$  暫定値以下の表より暫定値を設定

ウ 流出係数は、次の表に示す値を標準とし、排水区域全体を加重平均して求めること。

流出係数

工種別		地域別	
不浸透性道路	0.70 ~ 0.95	市中の建て込んだ地区	0.70 ~ 0.90
アスファルト道路	0.85 ~ 0.90	建て込んだ住宅地区	0.50 ~ 0.70
マカダム道路	0.25 ~ 0.60	建て込んでいない住宅地区	0.25 ~ 0.50
砂利道	0.15 ~ 0.30	公園、広場	0.10 ~ 0.30
空地	0.10 ~ 0.30	芝生、庭園、牧場	0.05 ~ 0.25
公園、芝生、牧場	0.05 ~ 0.25	森林地方	0.01 ~ 0.20

この表の使用については、中間値以上を用いること。

用途別総合流出係数標準値

敷地内に間地が非常に少ない商業地域や類似の住宅地域	0.80
浸透面の野外作業場などの間地を若干持つ工場地域や庭が若干ある住宅地域	0.65
住宅公団団地などの中層住宅団地や1戸建て住宅の多い地域	0.50
庭園を多くもつ高級住宅地域や畑地などが割り合い残る郊外地域	0.35

⑥ 許容放流量  $Qc = 0.093\text{m}^3/\text{s}/\text{ha} \times 3.1\text{ha} = 0.294\text{m}^3/\text{s}$

⑦ 洪水調整容量  $V1 = 3,430\text{m}^3$

⑧ 堆砂量  $V2 = 1.5\text{m}^3/\text{ha}/\text{年} \times 10\text{年} \times 4.8\text{ha} = 49.5 \approx 50\text{m}^3$

⑨ 調整池容量  $V = (V1 + V2) = 3,430 + 50 = 3,480\text{m}^3$

### (3) 緑地計画の考え方

#### 1) 森林法

- ・ 本計画区域の山林は、「地域指定対象民有林」の指定を受けているため、林地開発許可制度は森林法によって定められています。よって、「茨城県林地開発許可制度実施規則」に準拠し、対象民有林の概ね25%の面積を森林として残すこととします。

※民有林とは、国が所有する「国有林」以外で、個人、法人、都道府県、市町村が所有する森林を指します。

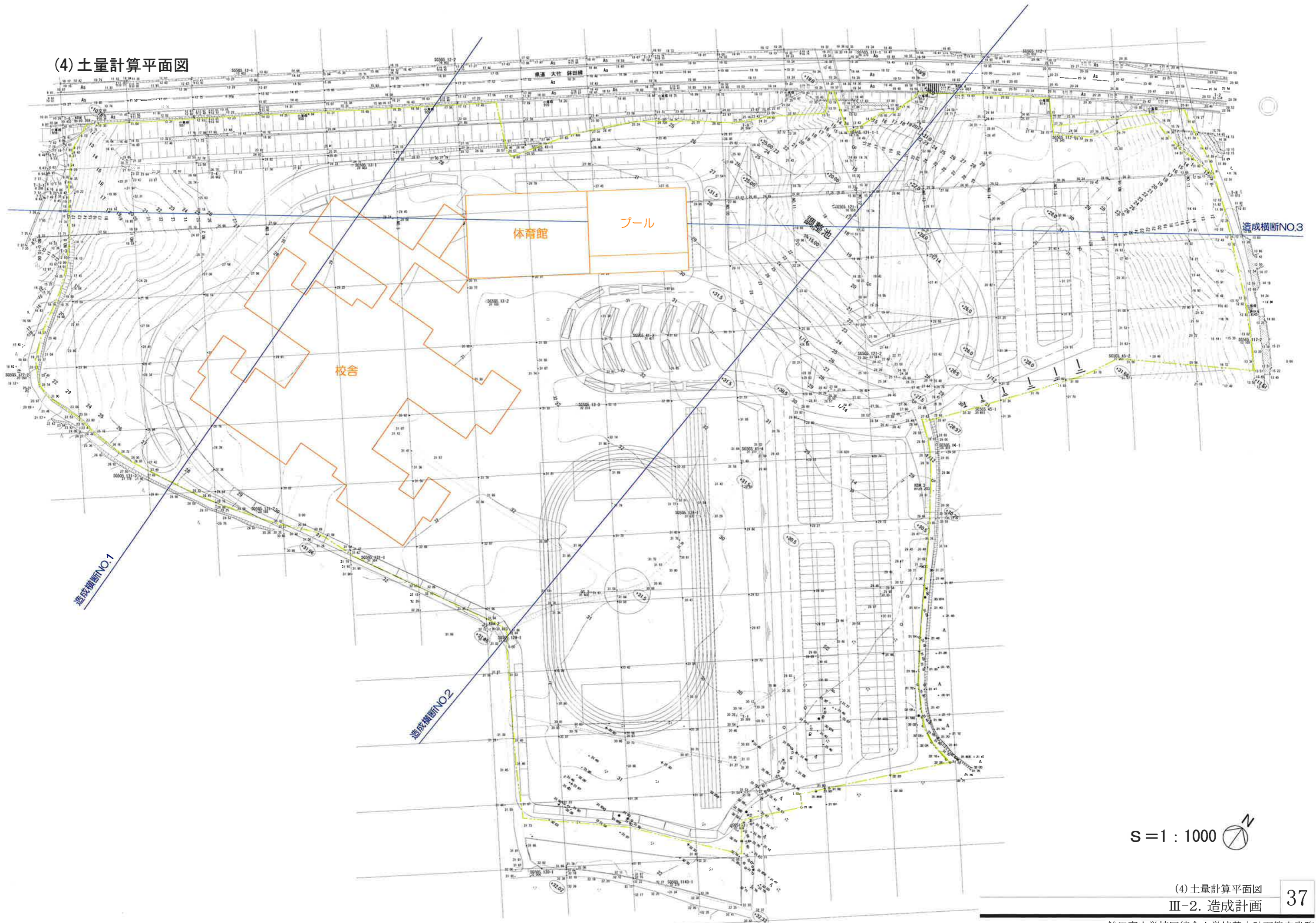
#### 2) 茨城県開発行為の技術基準

- ・ 『茨城県開発行為の技術基準』内の「10. 公園・緑地・広場」によると、開発区域面積が10ha以上20ha未満の場合、開発面積に対する公園・緑地・広場の割合は4%以上、開発面積に対する公園面積の割合は3%以上、公園規模及び箇所数は2500m<sup>2</sup>以上が1箇所以上を整備することが義務付けられています。

#### 3) 緩衝緑地帯

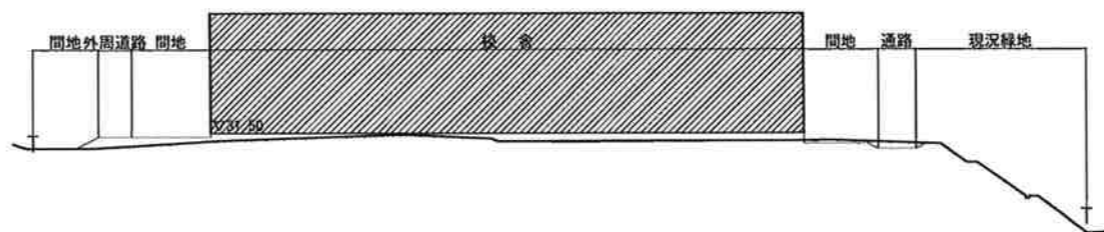
- ・ 周辺環境との調和や騒音・振動等による環境悪化をもたらさぬよう、地区の境界内側に極力緩衝緑地帯を計画します。

(4) 土量計算平面図

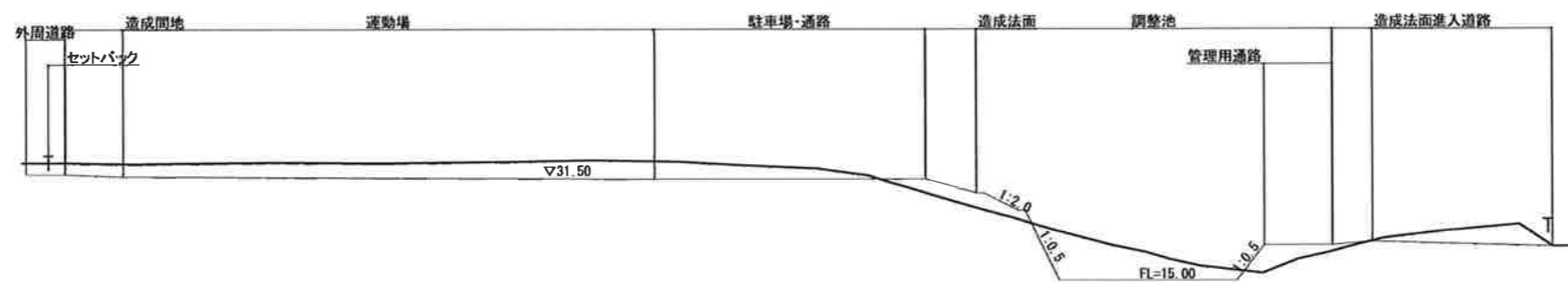


S=1:1000 

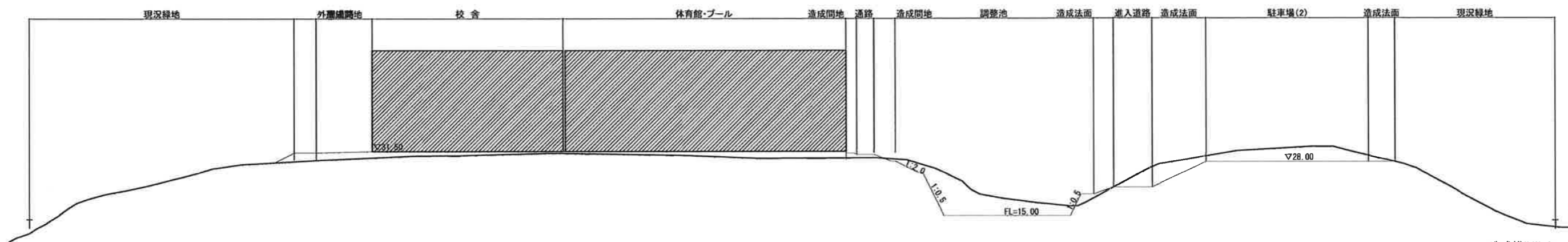
(5) 造成横断図



造成横断N 0.1



造成横断N 0.2



造成横断N 0.3

S=1 : 200

(5) 造成横断図  
III-2. 造成計画

---

### **3. 施設配置計画**

- (1) 土地利用計画の基本的な考え方
- (2) 施設配置の検討
- (3) 施設配置の比較

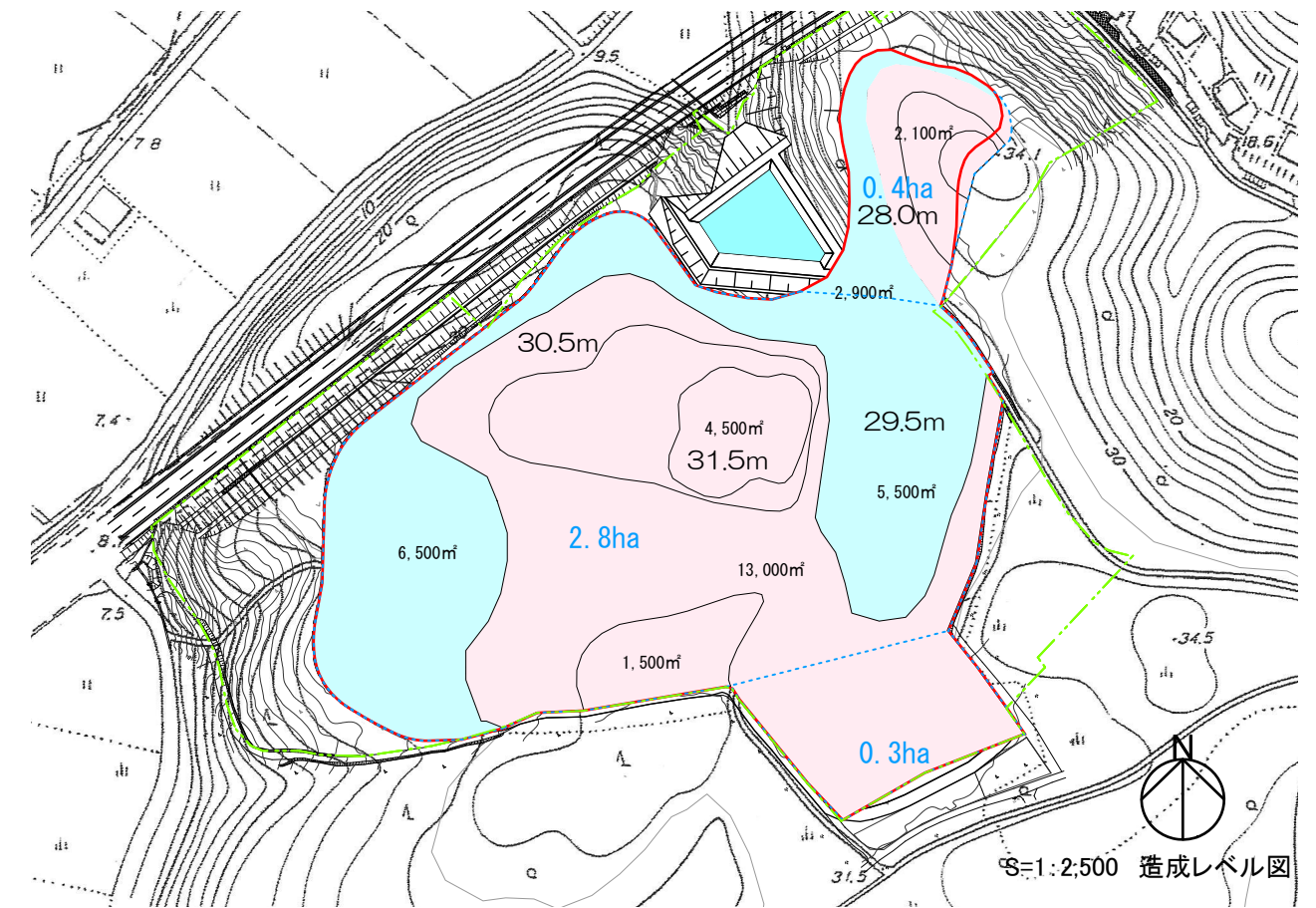
### 3. 施設配置計画

#### (1) 土地利用計画の基本的な考え方

##### 1) 土地利用検討の前提条件

###### a. 造成レベルの設定

- 計画敷地内は10m以上の高低差があり造成工事が必要となります。調整池以東を除いた範囲で、造成レベルを盛土、切土の量がほぼ同量になるように設定した場合、標高31.5mで約3.1haの平地を確保することができます。また、東側駐車場は、標高28.0mで約0.4haの平地を確保することができます。



##### 2) 施設配置計画の前提条件

###### a. 敷地の有効利用

- 敷地内の平地約3.1haは「施設ゾーン」、「運動場ゾーン」、「駐車場ゾーン」の3つのゾーンで構成します。広い敷地を有効利用できるゾーニングを行います。

###### b. 外周道路の整備

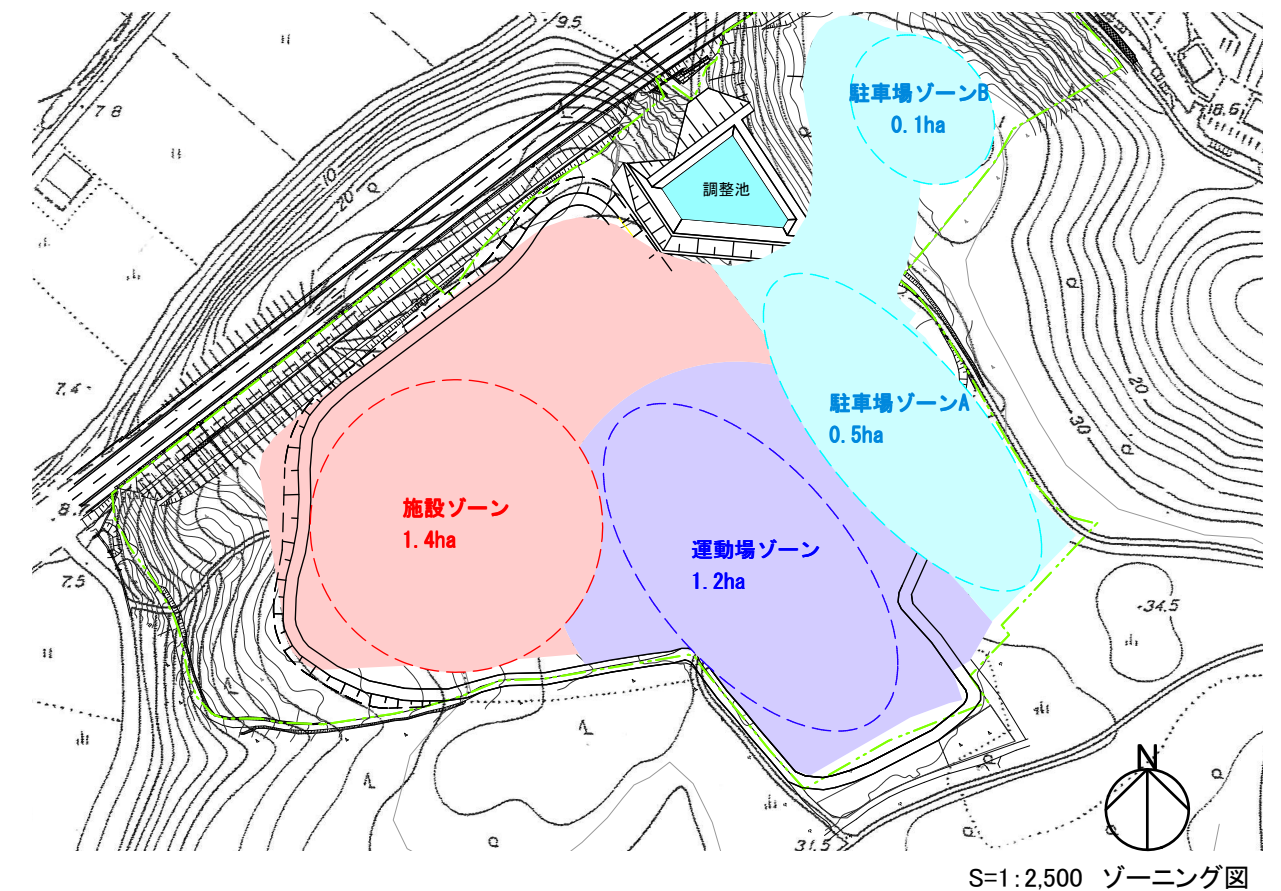
- 敷地の外周に幅員4m程度の管理用外周道路を整備します。敷地周囲の藪に対しての干渉地帯になり、子どもたちの日常安全性を確保できます。また、学校行事の際は、保護者用の駐車スペースとしても利用可能です。

###### c. 歩車分離

- 計画敷地内は歩道と車道を明確に分け、歩車分離を図ります。子どもたちが安心して学校生活を送れるように動線計画を徹底します。

###### d. 調整池の設置

- 敷地内に適切な量の調整池を計画します。

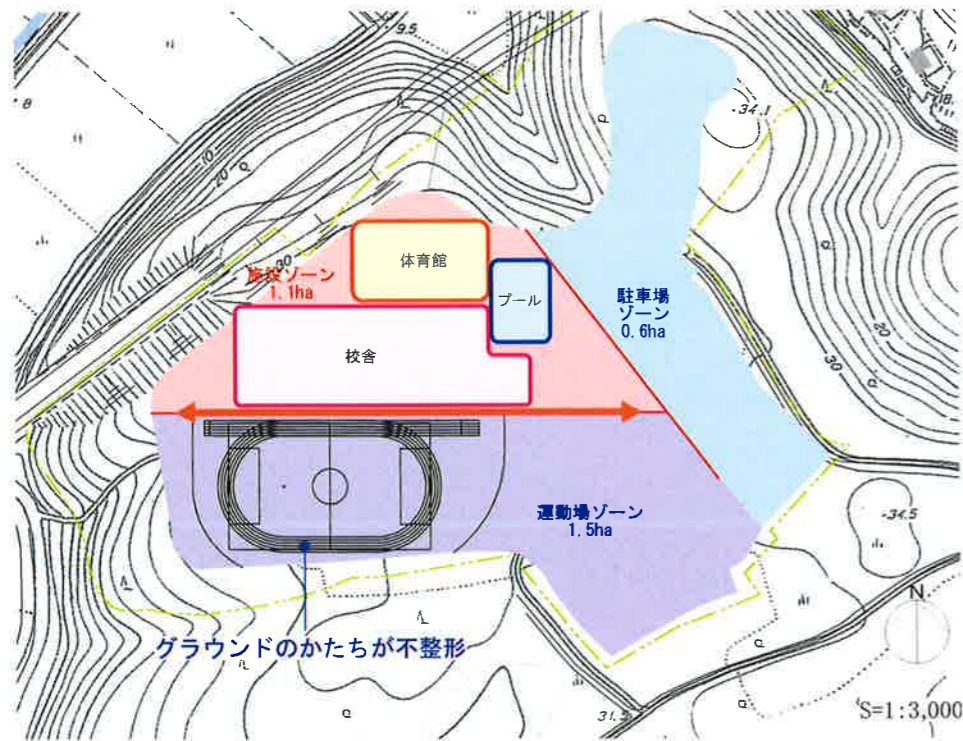




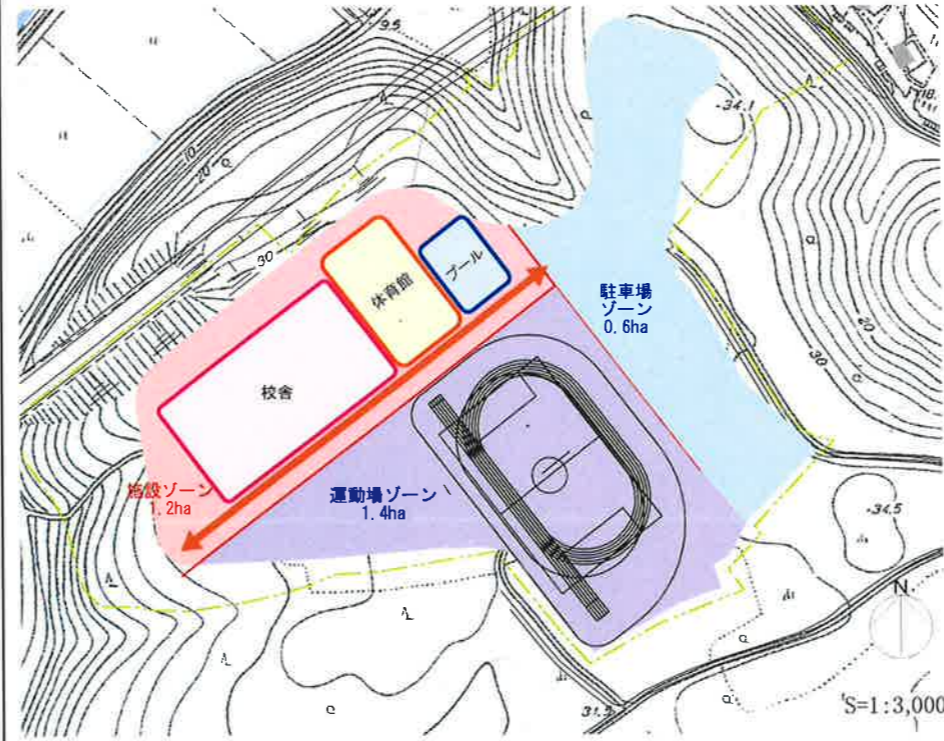
(2) 施設配置の検討

1) 施設配置の比較検討

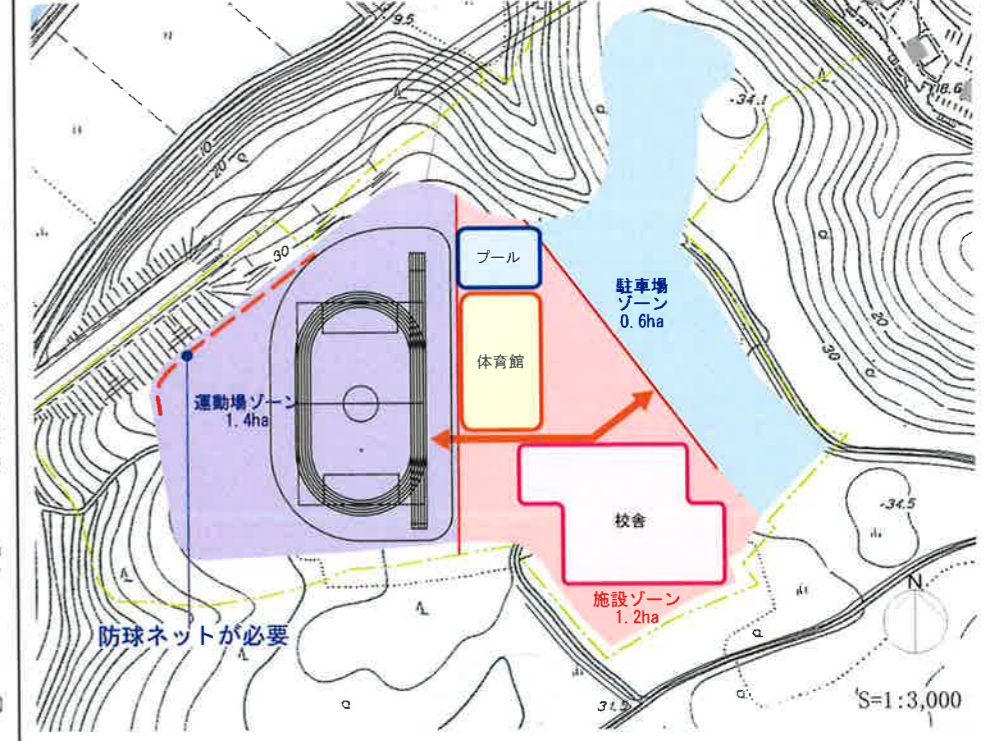
運動場を南に配置した案 **A案**



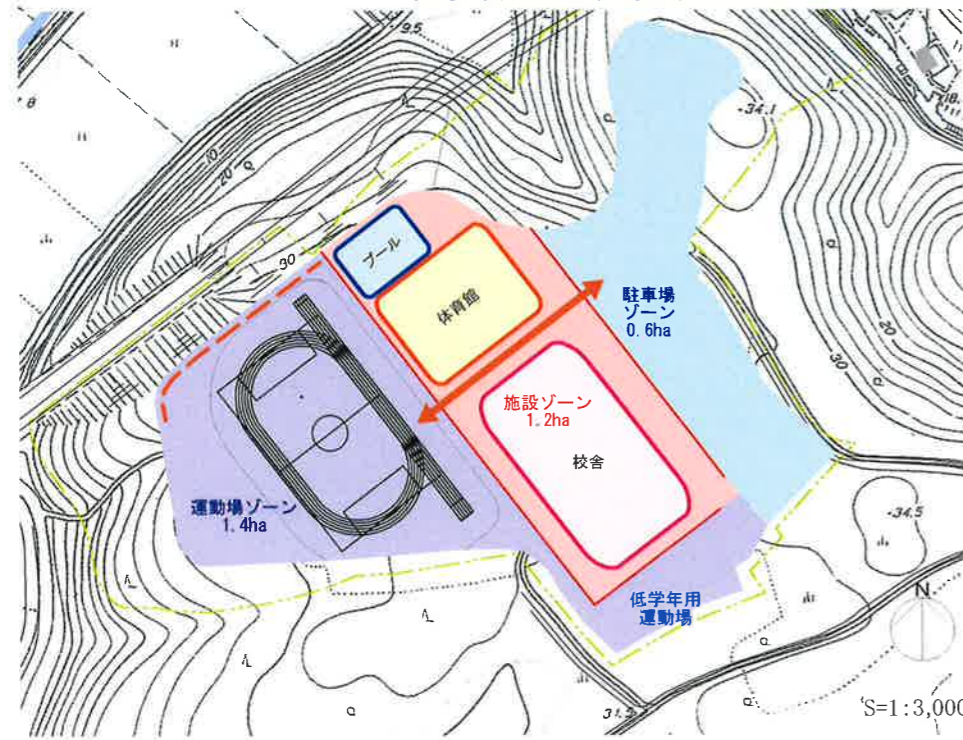
運動場を南東に配置した案 **B案**



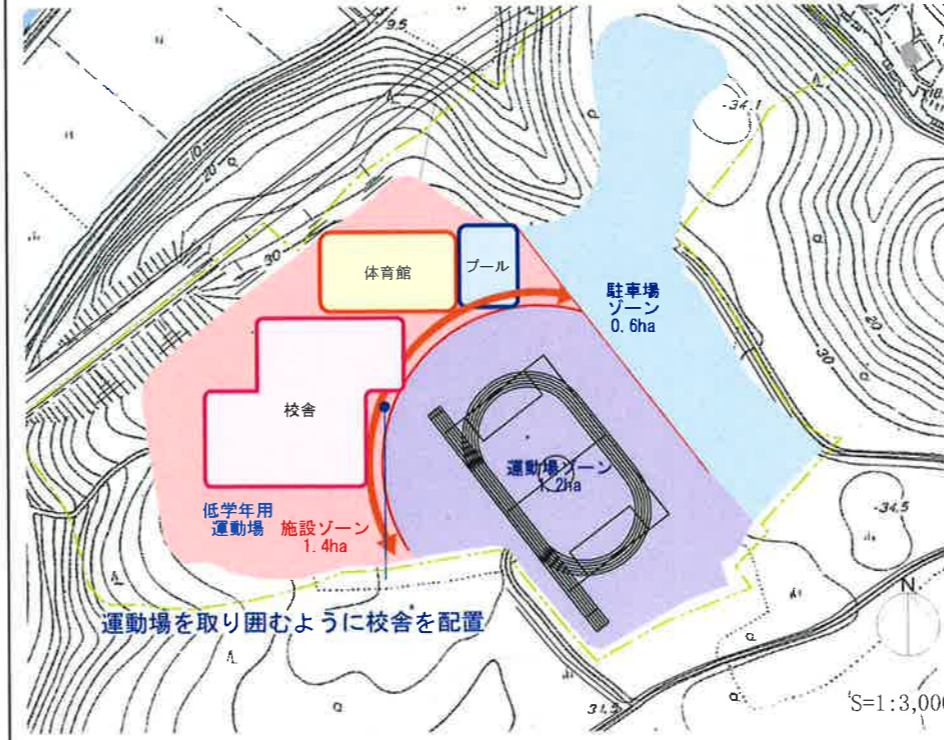
運動場を南西に配置し南東に低学年用運動場を配置した案 **C案**



運動場を南西に配置し南東に低学年用運動場を配置した案 **D案**



運動場を南東に配置し、運動場を囲んで校舎を配置した案 **E案**



2) 前提条件

運動場を、真南側・南東側・南西側の配置を比較検討しました。  
A～E案共に標高28.0mの位置に駐車場ゾーンを想定し、標高31.5mを学校施設・運動場を整備することを前提条件としています。

### (3) 施設配置の比較

・ 施設配置の有効性について下表のように検討し、E案を本計画の基本配置計画とします。

	A案	B案	C案	D案	E案
ゾーニング図	<p>運動場を南に配置した案</p> <p>S=1:5,000</p>	<p>運動場を南に配置した案</p> <p>S=1:5,000</p>	<p>運動場を南西に配置し南東に低学年用運動場を配置した案</p> <p>S=1:5,000</p>	<p>運動場を南西に配置し南東に低学年用運動場を配置した案</p> <p>S=1:5,000</p>	<p>運動場を南東に配置し、運動場を囲んで校舎を配置した案</p> <p>S=1:5,000</p>
運動場の有効利用	△ 運動場ゾーンが不整形で、200mトラックは確保できるが、利用しづらいスペースが発生する。	△ 運動場ゾーンが不整形で、200mトラックは確保できるが、利用しづらいスペースが発生する。	○ 運動場ゾーンは整形に確保できる。西側にゆとりが生まれる。	◎ 運動場ゾーンは整形に確保でき、南東側に低学年用の運動場も整備できて、敷地を有効利用できる。	◎ 運動場ゾーンは整形に確保でき、南東側に低学年用の運動場も整備できて、敷地を有効利用できる。
教室の日照条件	○ 全ての教室を南に面して配置できるが、従来型の教室配置になる。	○ 全ての教室を南に面して配置できるが、従来型の教室配置になる。	○ 従来型にとらわれない教室配置の計画により、必要な採光は十分確保することができる。	○ 従来型にとらわれない教室配置の計画により、必要な採光は十分に確保することができる。	○ 従来型にとらわれない教室配置の計画により、必要な採光は十分に確保することができる。
バスロータリーからの動線	△ 校舎が東西に長くなり、西側の教室ほどバスロータリーからの距離が長くなる。	△ 校舎が東西に長くなり、西側の教室ほどバスロータリーからの距離が長くなる。	○ 比較的バスロータリーから近い距離に教室を配置することができる。	◎ バスロータリーから近い距離に教室を配置することができる。	○ バスロータリーから比較的近い距離に教室を配置することができる。
地域開放のしやすさ	△ 体育館など地域開放ゾーンの区画がしづらい。	○ 体育館など地域開放ゾーンを駐車場から近い距離に集約できる。	○ 体育館など地域開放ゾーンを駐車場から近い距離に集約できる。	○ 体育館など地域開放ゾーンを駐車場から近い距離に集約できる。	○ 体育館など地域開放ゾーンを駐車場から近い距離に集約できる。
防球ネットの設置	○ 県道側に防球ネットを設置する必要はない。	○ 県道側に防球ネットを設置する必要はない。	× 県道側に防球ネットを設置する必要がある。	× 県道側に防球ネットを設置する必要がある。	○ 県道側に防球ネットを設置する必要はない。
校舎の配置	× 校舎配置にゆとりがない。	○ 校舎配置にゆとりがある。	× 校舎配置にゆとりがない。	○ 校舎配置にゆとりがある。	○ 校舎配置にゆとりがある。

---

#### **4. 平面計画**

- (1) 平面計画の前提条件
- (2) 平面計画の基本的な考え方
- (3) 防犯計画
- (4) 寸法計画
- (5) 機能構成の展開
- (6) 配置計画図 E-(1)/E-(2)

## 4. 平面計画

### (1) 平面計画の前提条件

#### a. 自然採光

- 子どもたちの学習・生活の主たるスペースは人工照明だけに頼るのではなく、自然採光による明るさを確保します。

#### b. 自然換気

- 防音地区であることも考慮し、教室をはじめとする居室は、必要に応じて自然換気を図れるように、原則として2方向に開口を設けることとします。

#### c. 明確な動線

- 子どもたちの日常動線・避難動線を明確にします。

##### ① 日常動線

- 低学年、中学年、高学年を独立性のある配置とし、他の学年ユニットを通過しない動線計画とします。
- 校務ゾーンからの各学年ゾーンへの最短距離の動線を確保します。
- 昼食時に混雑が予想される給食の配膳をスムーズに行えるように計画します。
- 体育の授業での運動場・体育館・プールへの移動、特別教室への移動の際に他の学年ユニットを通過しない動線計画とします。

##### ② 避難動線

- 災害が発生した場合の避難経路に関して、建築基準法・消防法等の法令を遵守します。
- 万一の際の安全かつ迅速な避難が可能のように、原則として避難経路は日常動線と同じ経路を、教室等子どもたちのベースとなる場所からは直接外部へ避難できる計画とします。

#### d. バリアフリー

- 内部各階の床には原則として段差は設けないものとします。また、車椅子対応のエレベータを設けるとともに、各階に車椅子で利用できるWCを設けます。

#### e. 汎用性

- 一般論として、現在立案される計画は、現在の想定される種々の条件に基づいて設定されるものです。これらの条件には、時間が経過しても変化しないことがらと、時間経過のなかで変化することがらがあります。避難経路やWCなどの機能は、時間が経過しても変化しないものと考えられます。
  - 教育方針や教育内容の変化、または様々な機器の導入による教育手法の更新
  - 人口動態による児童数の増減
  - 社会情勢の変容

などによって、変化する可能性をもつ機能に関しては、こうした変化に対して、主体構造を維持しながら、部分的な内部空間の改造や間仕切壁の更新によって対応可能な汎用性をもたせることを前提に計画します。

### (2) 平面計画の基本的な考え方

#### 1) 構造・設備計画との整合性

- 各ゾーンの機能的な連続性や適切な規模を確保すると同時に、「合理的な構造計画」と「系統だった設備計画」と平面計画・断面計画の整合が欠かせない要件となります。

##### a. 合理的な構造計画

- 耐震壁をバランスよく配置した強度型の建物とし、大地震に遭遇した際の躯体・仕上げ材・設備の被災を最小限に留めるものとします。
- また、求められる空間に対して適切な横架材を選択し、平面計画との整合性を図ります。

##### b. 系統だった設備計画

- 縦経路の各階の水平方向の受け持ち範囲を設定し、明確な設備の縦経路を確保します。設備経路の単純化を図ることを前提に、平面計画と設備計画の整合性を図ります。

#### 2) 平面計画の考え方

##### a. システマティックな構成

- 全体および各部において、恣意的な寸法要素を排除し、求められる機能を組織的に系統立てて構成します。具体的には、寸法計画の基本モジュールを前提として、全体から部分に至るまでの寸法体系を形成し、その寸法秩序に基づいて構造計画・設備計画との整合性を図ります。

##### b. 明快なゾーン分け

- ダイヤグラムに従い、類似する機能を集約した明確なゾーンを形成し、各々のゾーン相互のつながりを考慮しながら、各ゾーンを適切な位置に配置にします。

##### c. メディアセンターを中心に据える

- メディアセンターは、学習活動の中核機能として校舎の中心に据え、他のゾーンと有機的なつながりをもたせます。

### (3) 防犯計画

#### a. 敷地外周の囲障

学校敷地外周には丈夫なフェンスを施し、不審者が侵入しにくいものとします。

#### b. 防犯カメラ

適切な位置に監視カメラを設置し、不審者の侵入を監視します。

#### c. 死角を最小限にとどめる

建物と敷地外周フェンスの間には、死角になる部分が発生します。この部分を最小限に留めます。

## (4) 寸法計画

### 1) 小学校における寸法の考え方

#### a. 学年ごとの身体寸法

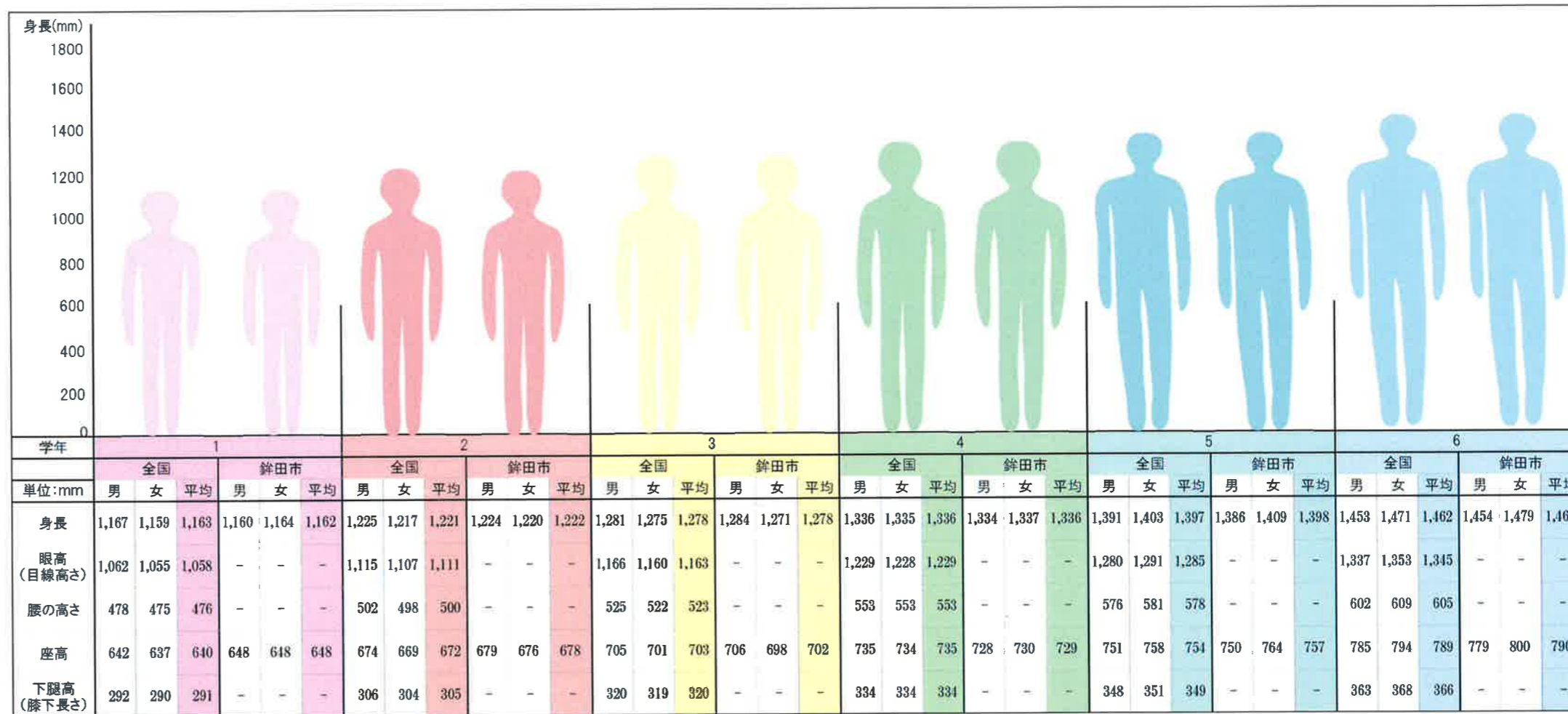
- 小学生は6歳～12歳の成長段階であり、身体大きさが最も変化する時期です。
- 小学生の身長は全国的には、
  - ・低学年平均115cm～125cm
  - ・中学年平均125cm～135cm
  - ・高学年平均135cm～145cmです。
- 銚田市と全国平均の成長曲線はほぼ同等です。

#### b. 身体寸法に合わせた計画

- 小学校の各部の寸法は、各年齢に合った計画とすることにします。
- 開口部の内法高さは2,000mmに設定し、高さ方法の基準とします。
- 洋式化の進んだ今日においても、室の広さを畳何帖として示されることから、平面寸法は1,800mm×1,800mm(約1坪)を基準とすることにします。

#### c. 身体寸法に合わせた家具

- 年齢により身長が大きく異なるため、年齢により家具等の寸法を合わせなくてはなりません。特別教室等、異学年が使用する教室の机・イスは、使用頻度の高い学年に合わせて、フレキシブルな家具計画が必要です。



※全国平均 : 第3版コンパクト建築設計資料集\_千葉工業大学上野研究室資料より  
銚田市平均 : スポーツテスト(銚田市)より

### 2) 材料寸法と建物寸法

校舎を計画するにあたって、

- ・資源を消費する建設工事において資源を有効活用し、環境への負荷を軽減する。
  - ・無駄をなくして、建設費を抑制する
- ということを念頭において、寸法を設定します。  
主たる使用材料の定尺寸法は以下の通りです。

#### a. 躯体材料

型枠 : 900mm×1,800mm

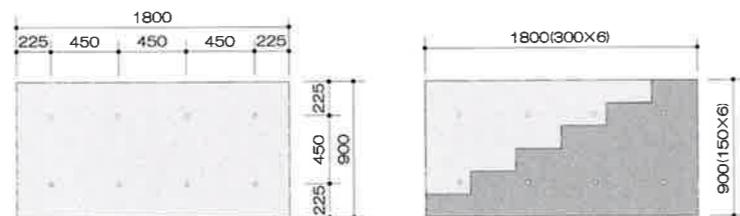
#### b. 仕上材料

合板類 : 910mm×1,820mm

ボード類 : 910mm×1,820mm

岩綿吸音板 : 455mm× 910mm

カーペットタイル : 500mm× 500mm



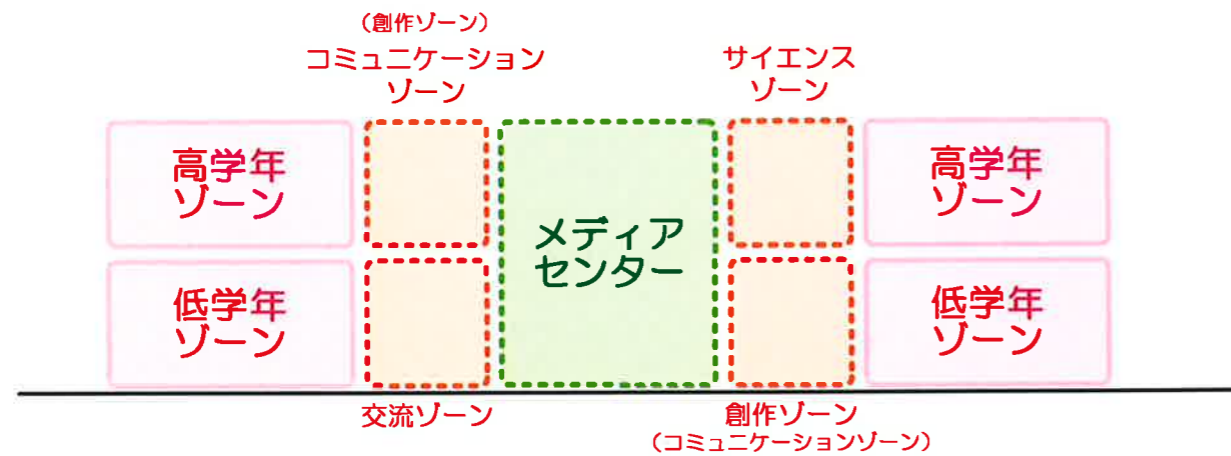
## (5) 機能構成の展開

### 1) メディアセンターを中心に据える

『第Ⅱ章-2. コンセプトの具体化』にあるように、メディアセンターを施設の中心とし各機能への展開を図ります。また、配置計画においては『第Ⅲ章-2. 施設配置計画』のE案をベースに施設内のゾーニングを計画します。

### 2) メディアセンターが中心の断面計画

メディアセンターを中心に、特別教室・学年ゾーンを配置します。メディアセンターの情報システムと連携し、多様な授業形態に対応できるとともに、学年を超えたコミュニケーションが誘発されるような計画とします。

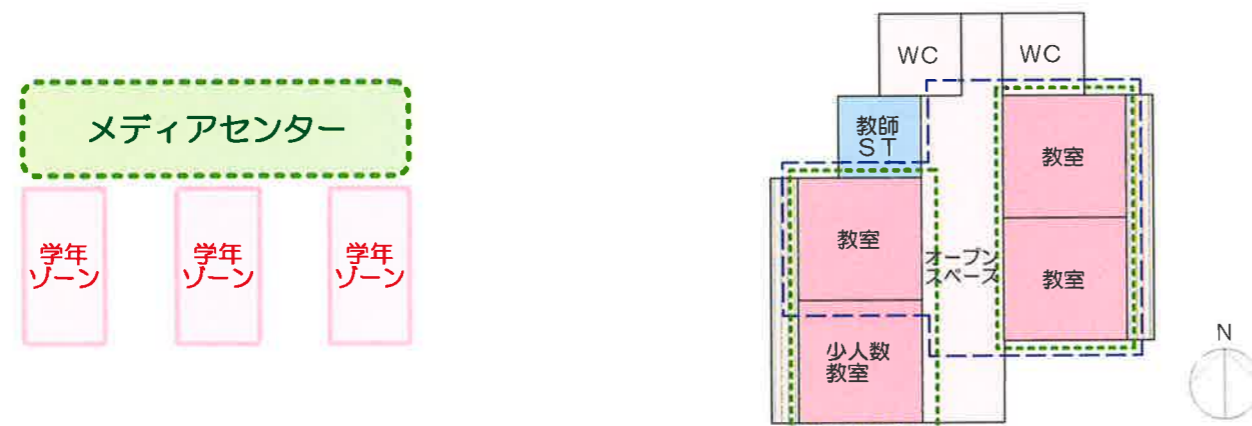


### 3) 普通教室の配置検討

『第Ⅱ章-2. コンセプトの具体化(3) 普通教室まわりの構成』にあるように、

- ① オープンスペースを挟んで教室が対面する配置
  - ② 片側にオープンスペースがある配置
- を以下のように検討しました。

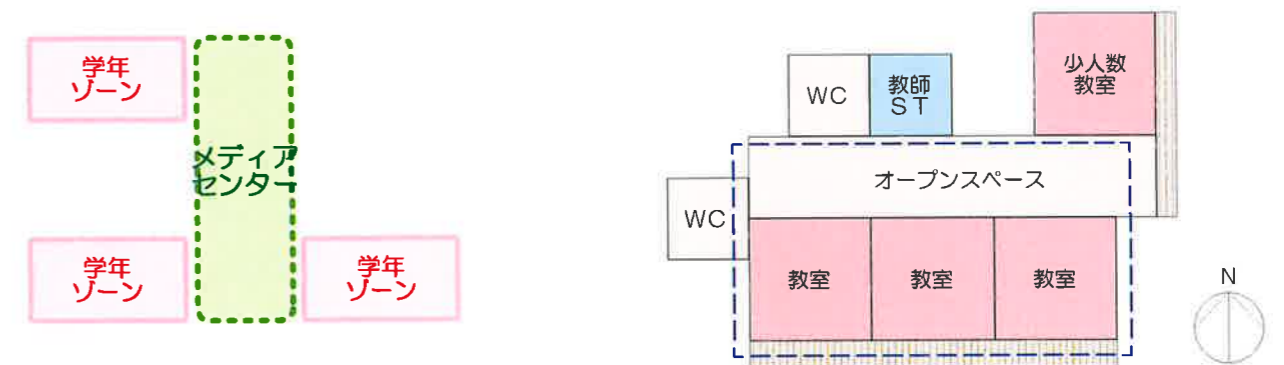
#### ① オープンスペースを挟んで教室が対面する配置



メディアセンターを東西軸に正対させると①のような学年ゾーンが構成されます。

- オープンスペースを挟んで教室を対面させることで各教室間の距離が近くなります。
- 少人数教室も合わせると2教室ずつのクラスターを構成できるので児童数の増減によって教室の形態を変化させやすくなります。

#### ② 片側にオープンスペースがある配置

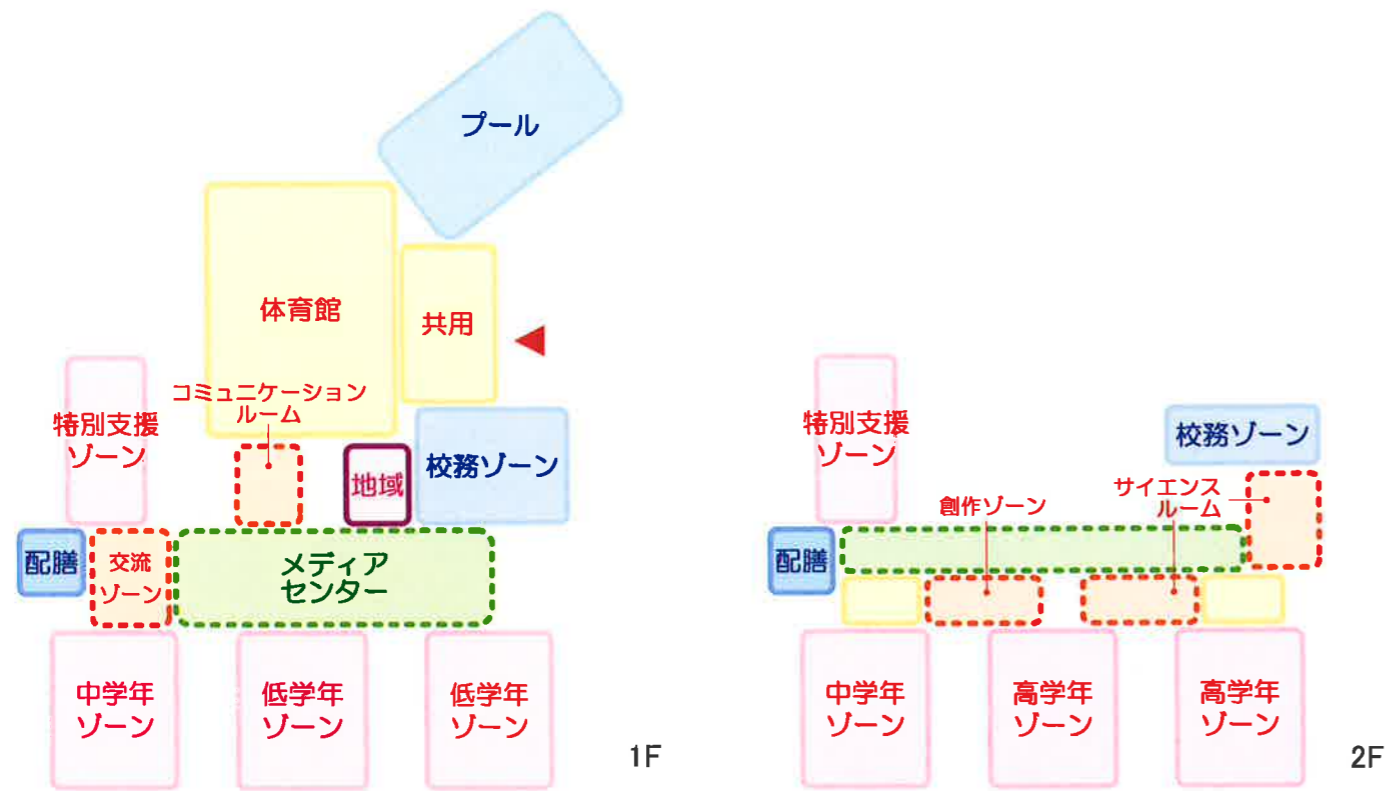


メディアセンターを南北軸に正対させると②のような学年ゾーンが構成されます。

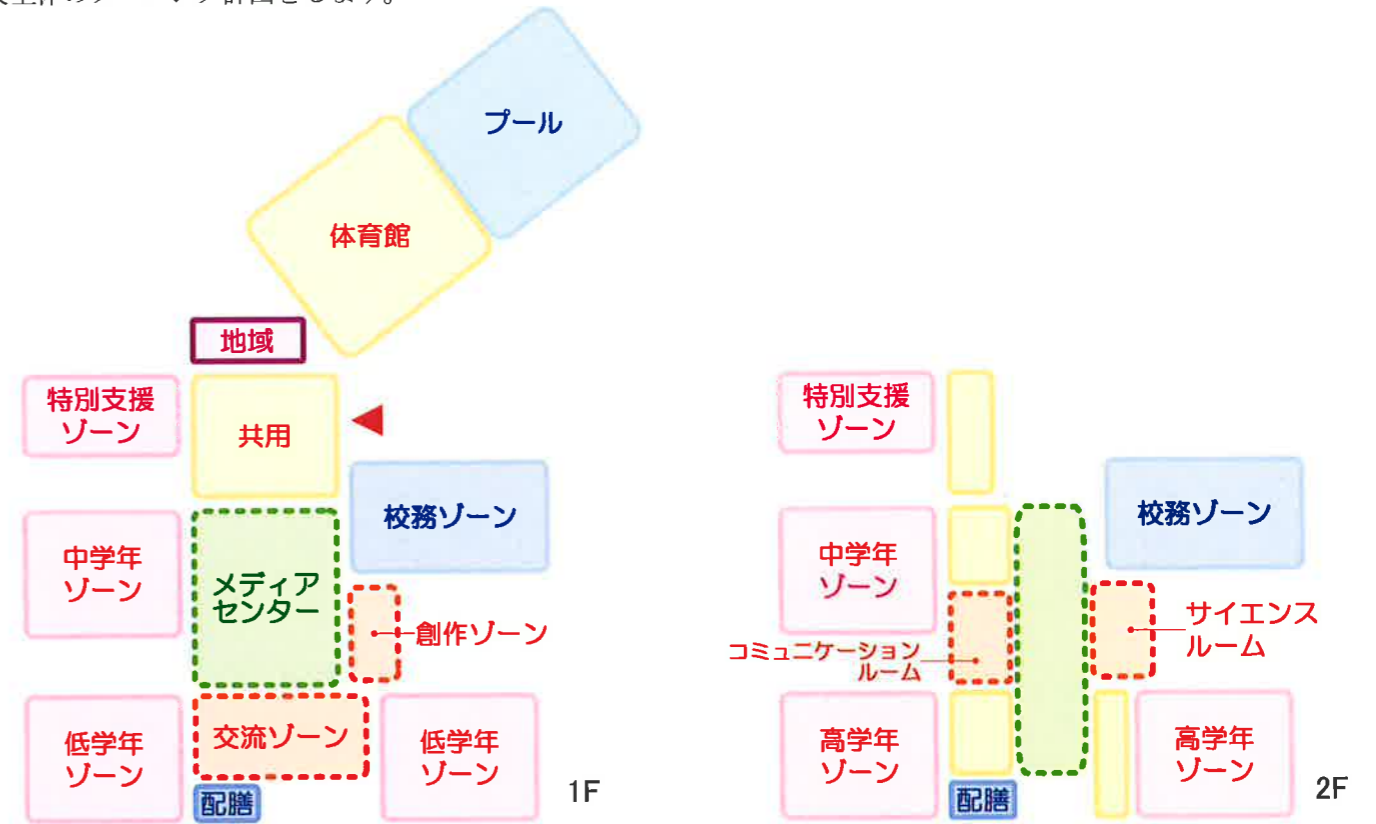
- 3教室それぞれに均等にオープンスペースを配分することが可能です。
- 少人数教室が独立しているので目的に合わせて仕様を変化しやすくなります。
- 普通教室を全て南面に向けることが可能です。

4) E案の比較検討

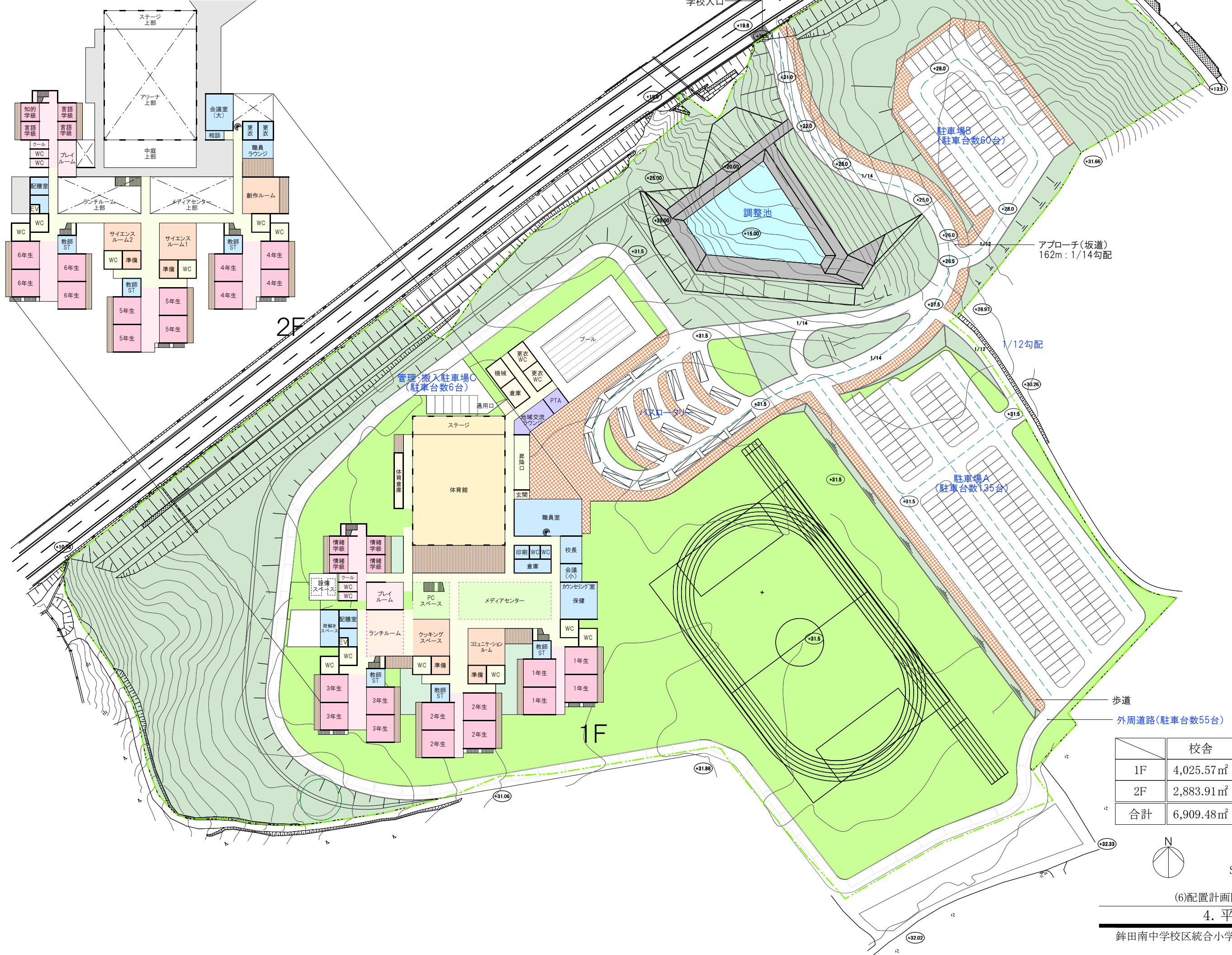
- E-(1)
  - ①で示した学年ゾーンとメディアセンターの関係から施設全体のゾーニング計画をします。



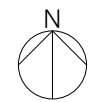
- E-(2)
  - ②で示した学年ゾーンとメディアセンターの関係から施設全体のゾーニング計画をします。



(6) 配置計画図 E-(1)



	校舎	体育館・その他
1F	4,025.57㎡	1,452.47㎡
2F	2,883.91㎡	-
合計	6,909.48㎡	1,452.47㎡



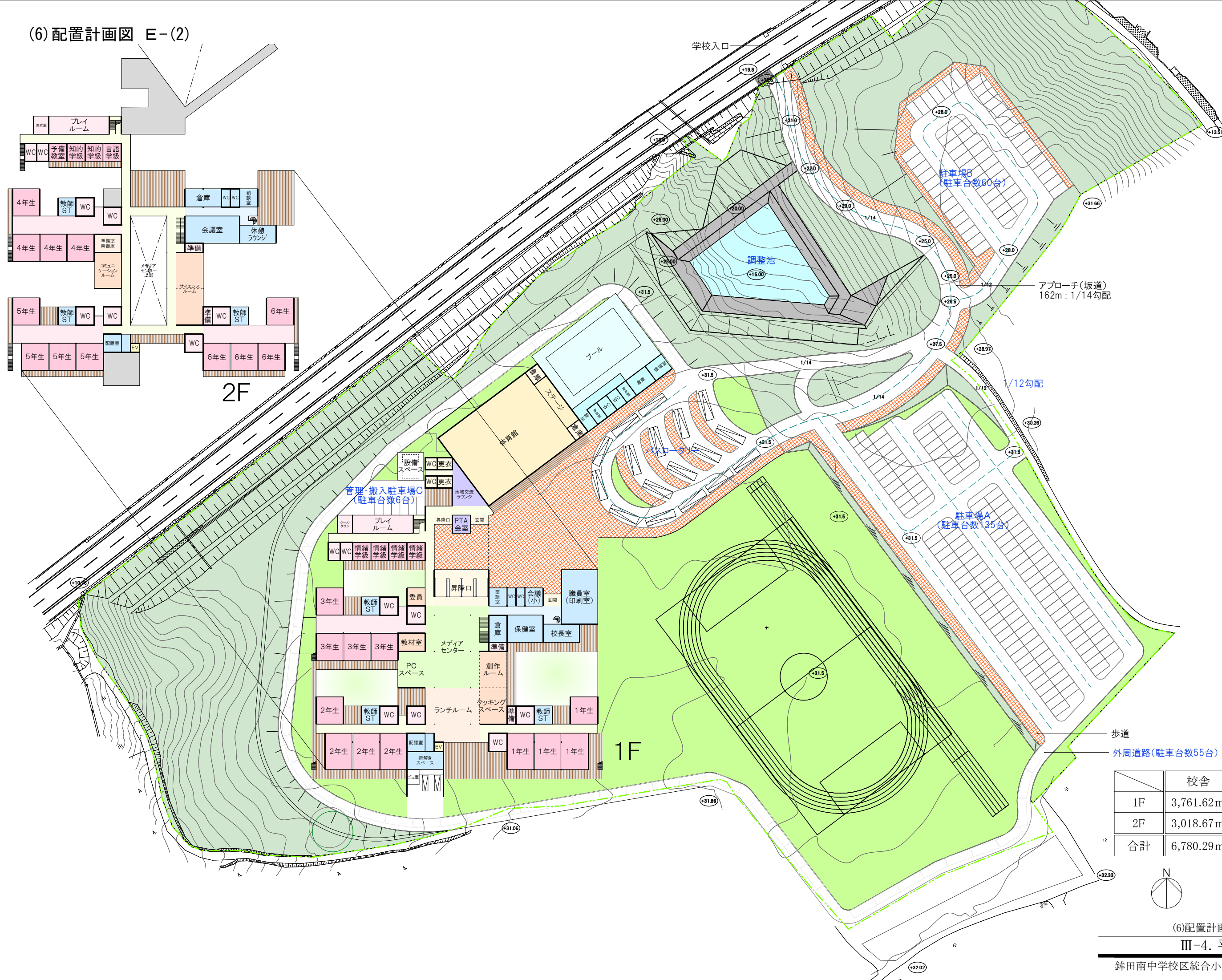
S=1:1,000

(6)配置計画図 E-(1)

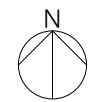
4. 平面計画



(6) 配置計画図 E-(2)



	校舎	体育館・その他
1F	3,761.62㎡	1,409.62㎡
2F	3,018.67㎡	-
合計	6,780.29㎡	1,409.62㎡



S=1:1,000

(6)配置計画図 E-(2)

Ⅲ-4. 平面計画

---

## 5. 内部空間の計画

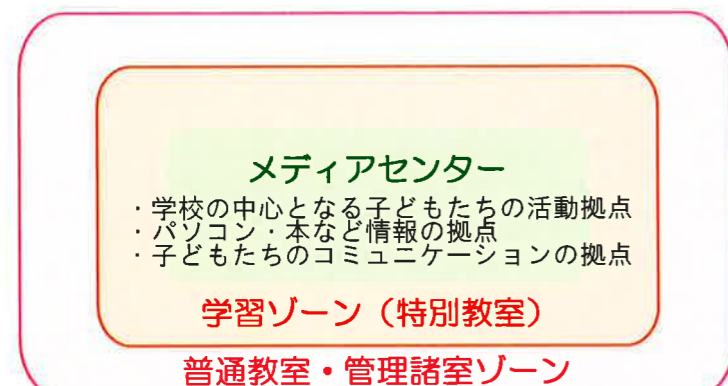
- (1) 内部空間の基本的な考え方
- (2) 内部仕上げの計画
- (3) 計画概要

## 5. 内部空間の計画

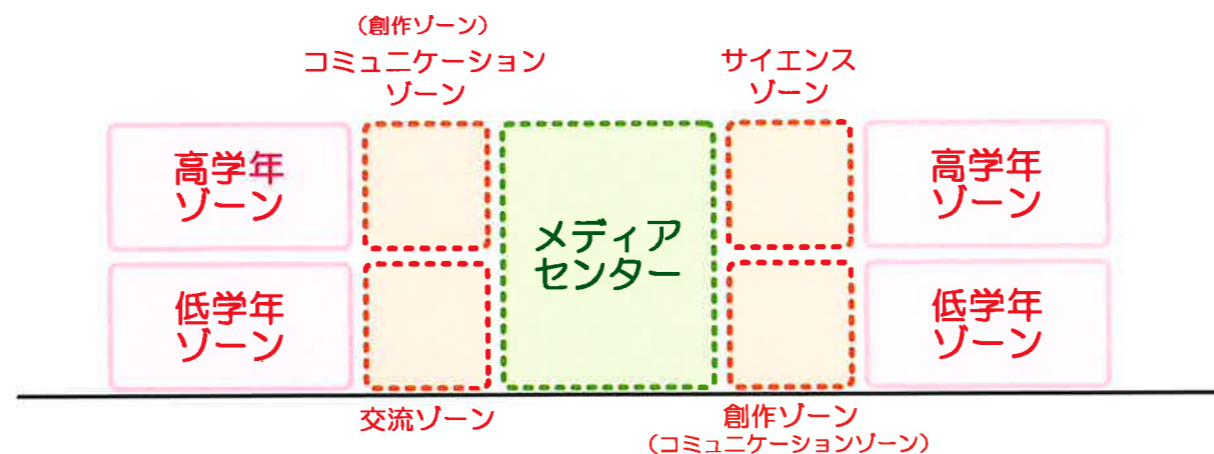
### (1) 内部空間の基本的な考え方

#### 1) メディアセンターの位置づけと基本条件

##### a. メディアセンターから広がる学習・交流のイメージ



平面的な広がり



断面的な広がり

### “読む・話す・調べる・発表する・発信する”

本・メディアが集積するメディアセンターを中心に多様な学習活動が展開していくような空間を目指します。

#### b. 連続性のある空間

メディアセンターを、学校施設の中核機能として学校の中心に位置づけます。

すべての特別教室に対して動線的・視覚的・機能的に連続性のある関係を持たせることで、学習・交流の幅が広がっていくような計画とします。

#### c. メディアセンターの特性



本・メディアに特別教室の要素と交じり合うイメージ



本・メディアの属性

#### コンピュータ・語学

情報化社会に生きる現代の子どもにとって、コンピュータの使用は当たり前になっています。一方で、大きな危険に巻き込まれる可能性もあります。正しい使い方を学ぶ授業としてPCルームを設けます。

また、このスペースは視聴覚資料として、本にはない“動き”と“音”を利用した語学等の学習にも対応できるスペースとします。

#### レファレンス

本やメディアからは多くの情報を得ることが可能です。そこから自分に必要な情報を取捨選択することは、学習面において非常に重要な行為です。PCルーム・ラウンジルームを調べ学習に対応できるレファレンスエリアとして開放します。

#### 地域と交わる

地域の郷土資料や統合される小学校の歴史についての資料コーナーを設けます。国際的な教育を進めるには、自分の周りの環境を知ることも重要な役割を果たします。銚田の地域文化をはぐくむ人を育てます。

#### 本に親しむ

小学校低学年の国語の授業は“もじ”を学ぶことから始まります。低学年のうちから本を読む習慣を養うことを目的として、本に触れる機会を増やす計画とします。絵本を中心とした図書資料を「本に親しむエリア」として低学年ゾーンの近くに配置します。

## (2) 内部仕上げの計画

### 1) 内部仕上げの基本的な考え方

#### ・児童に寄り添う仕上げ

内部の仕上げは、子どもたちが毎日生活する空間を取り囲む大切な要素です。  
以下のことがらに配慮しながら、スペースの機能に応じた仕上げ材を選定します。

#### a. 健康的安全性

- ・子どもたちの健康を第一に考え、建築基準法に規定される仕上げ材のシックハウス対策は当然のこととして、下地材や接着剤なども有害物質を含有しない材料を選定します。

#### b. 日常的安全性

- ・校内を走り回ったり、友だちとふざけ合ったり…。  
子どもの日常生活には予測不可能な行動が多く存在します。
- ・そうした行動を教育として抑制するのではなく、子どもたちの成長の過程において必ずしも否定すべきものではないと考えます。それは裏を返せば健康であることの表出と捉えるべきです。



- ・子どもたちが衝突したり、転倒しても、大きな怪我に至らないように、床面・壁面に突起をつくらず、また、頭部よりも低い位置にある流し台や作業台などの家具の端部の処理に注意します。

#### c. 快適性

- ・毎日、落ち着いた生活ができるように、子どもたちの心理や情緒に配慮して仕上げ材を選定します。具体的には、工業製品の無機質材料を最小限に留め、木材を主体とした自然素材によって内部空間を仕上げます。

#### d. メンテナンス性

- ・清掃も子どもたちの重要な学習のひとつであるという前提に立って、清掃しやすい材料を選定します。

### 2) 内部仕上げの概要

#### ・ゾーン毎に適切な仕上げを施す

内部仕上げは、ゾーン毎に適切な材料を選択します。また、オープンスクールとしての難点となる反響などの音の影響を和らげるために、適切な吸音・遮音の処置を施すものとします。

#### a. 学年ゾーン

- ・親しみやすさと安らぎを与える木質系材料を主体として計画します。
- ・具体的には、床はフローリング、天井はオープンな空間の特性に配慮して吸音性の高い材料を用います。壁は木質材料（板材または合板）とし、壁面全部を掲示スペースとして使用できるものとします。

#### b. 学習ゾーン（メディアセンター・特別教室）

##### ①メディアセンター

- ・メディアセンターは印刷資料と電子情報を共存させるため、床はフリーアクセスフロアを前提として計画します。
- ・また、天井面は連続する空間の反響を緩和するために、吸音性の高い材料を用います。

##### ②ランチ・クッキングルーム

- ・床は、清掃のしやすさと和やかに食事をする環境を両立する材料とします。
- ・天井は、大勢の子どもたちが同時に食事をする際に発する音を吸収するために、吸音性の高い材料とします。
- ・壁面は、落ち着いた雰囲気のある食育空間とするために、木質系の材料を用います。

##### ③創作ルーム

- ・水彩画等で使用する水をこぼした場合の清掃のしやすさに配慮して、フローリングとします。
- ・壁面は、図画などを掲示することを前提として、画鋸の効く木質系材料とします。

##### ④サイエンスルーム

- ・実験・実習で使用する水をこぼした場合の清掃のしやすさに配慮して、フローリングとします。
- ・壁面は、各種資料などを掲示することを前提として、画鋸の効く木質系材料とします。

##### ⑤コミュニケーションルーム

- ・壁・天井は、残響に配慮し、反射面と吸音面を適切に配置します。
- ・壁面は、木質系材料を主体としながら、学年ゾーンとは異なる雰囲気を形成します。

#### c. 体育ゾーン

##### ①体育館

- ・床は、鋼製床下地のうえ、体育館用フローリング（ウレタン塗装）とします。
- ・壁・天井は、体育・スポーツの使用と講堂としての使用を両立させる仕上げ材を選択します。  
特に、音響設備を使用した際や音楽発表の際の適切な残響と運動の際に発生する音や声の反響に配慮します。



壁面下部：衝突の衝撃を和らげると同時に、破損しにくい木質系材料とし、柱型等の出隅をつくりません。

壁面上部：ボールをぶつけても破損せず、かつ吸音性のある材料を用います。

天井面：ボールをぶつけても破損せず、かつ吸音性のあるグラスウールボード等の材料を用います。

##### ②プール

- ・床は、耐水性が高く、清掃もしやすく、滑りにくい、磁器質タイルもしくは、塗床とします。

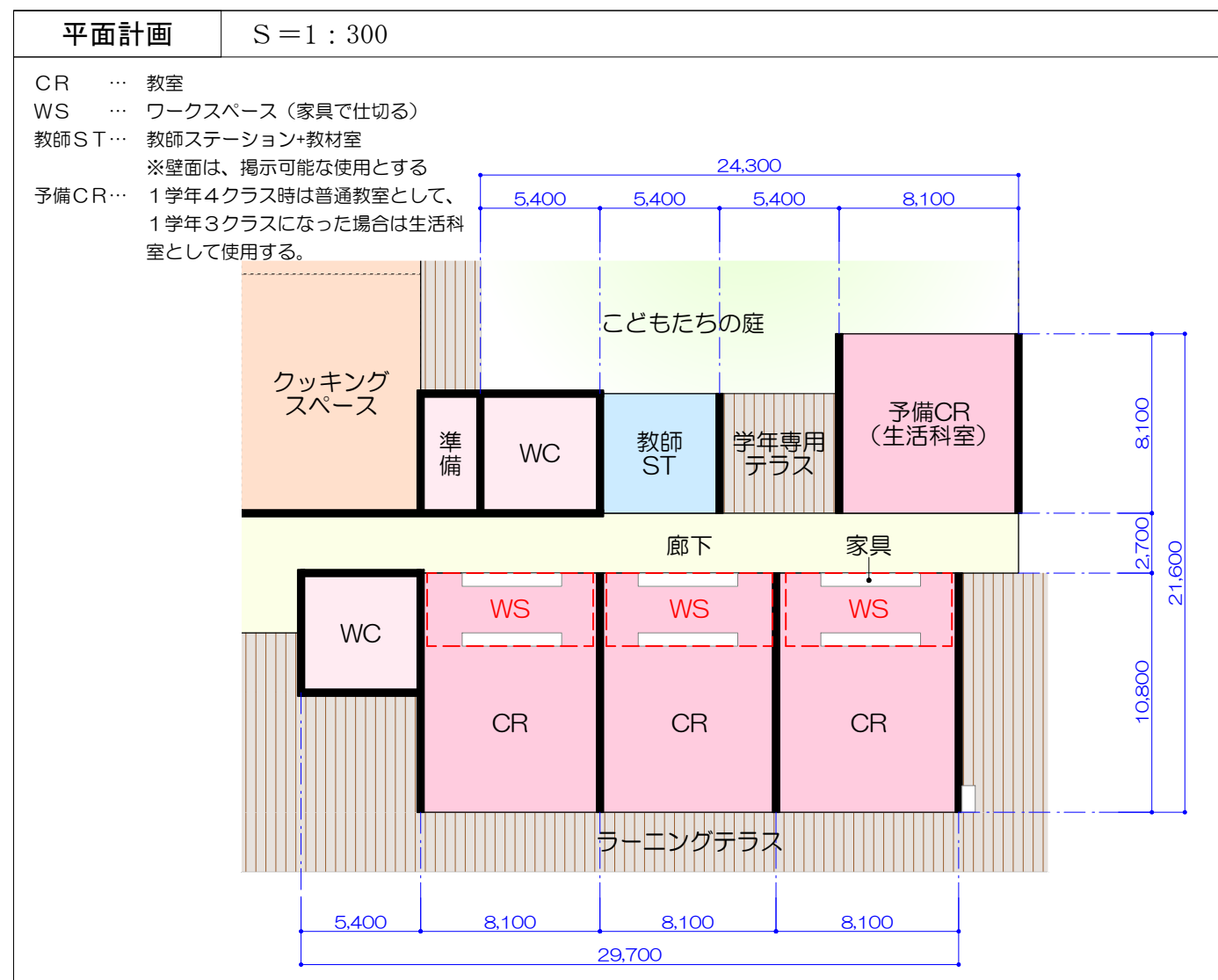
#### d. 昇降口・地域交流ゾーン

- ・子どもたちにとっても、先生にとっても、保護者にとっても、地域開放においても、外部と内部の接点となることから、床は耐水性、耐摩耗性に優れ、また雨天時の防滑性も兼ねた材料とします。

(3) 計画概要 (E-2案)

1) 低学年ゾーン

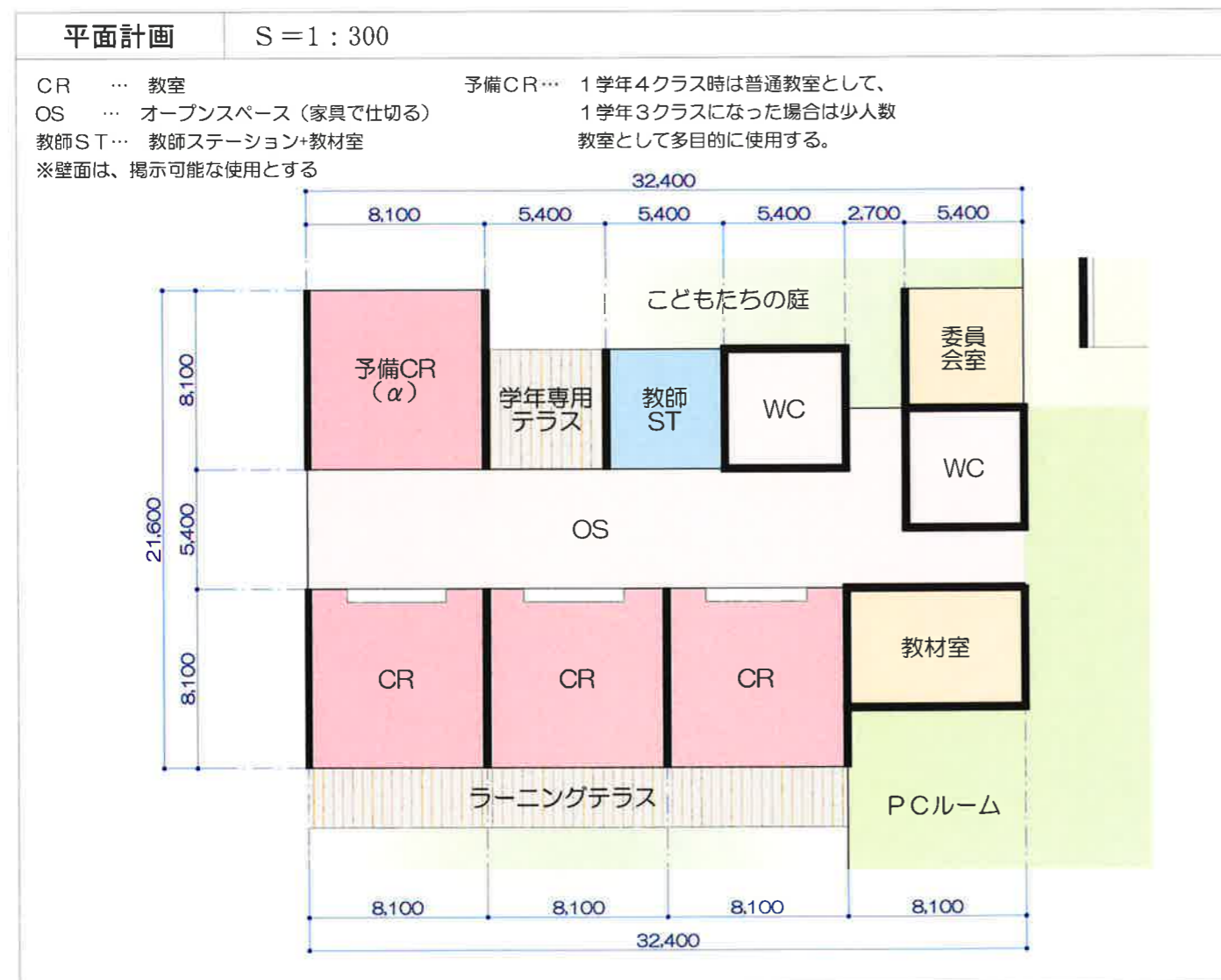
ゾーン	学習・生活ゾーン
分類	低学年
ゾーンの数	2 (1・2年生)
利用目的	-
基本方針	低学年教室は総合教室として、中高学年教室に比べて一回り大きな面積を確保し、授業・一般学習スペースに加えてワークスペースを取り込む。可動式の家具で教室内を区切ること少人数学習等に対応する。 また、3クラスの南面にテラスを設けて、教室・ワークスペースと一体的に使用することも可能にする。
ゾーンの面積	503.01㎡



室名	普通教室	教師ステーション	WC	
室数	3/学年ゾーン	1/学年ゾーン	2/学年ゾーン (男女別)	
室面積	87.48㎡	29.16㎡	29.16㎡	
最大定員	40名	-	-	
天井高	2.7m	2.7m	2.4m	
用途	児童の生活・学習の拠点。学校生活のホームベースになる場所。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	-	
基本方針	総合教室型を前提とし、ワークスペースを教室に設置する。	開かれたスペースとし、児童の質問や相談を気軽に受けることができる。	明るく清潔な場所とする。1学年最大160人として、便器・手洗の数を設定する。	
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)	ビニルシート
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	コンクリート打ち放し仕上
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板	化粧石膏ボード
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	手洗い	なし	衛生器具 (洋式トイレ)
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備	換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-	-
	収納	収納棚	-	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-	清掃用具入れ
	掲示	-	-	-
	カーテンブラインド	カーテンレール	カーテンレール	-
	他			大型鏡
備品	机・イス	児童用机・イス×40	テーブル・イス	-
	収納	児童用ロッカー (40名分)	可動式収納ボックス	-
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード	-
	カーテンブラインド	カーテン	カーテン	-
	他			
備考	ラーニングテラスに流しを設置			

2) 中学年ゾーン

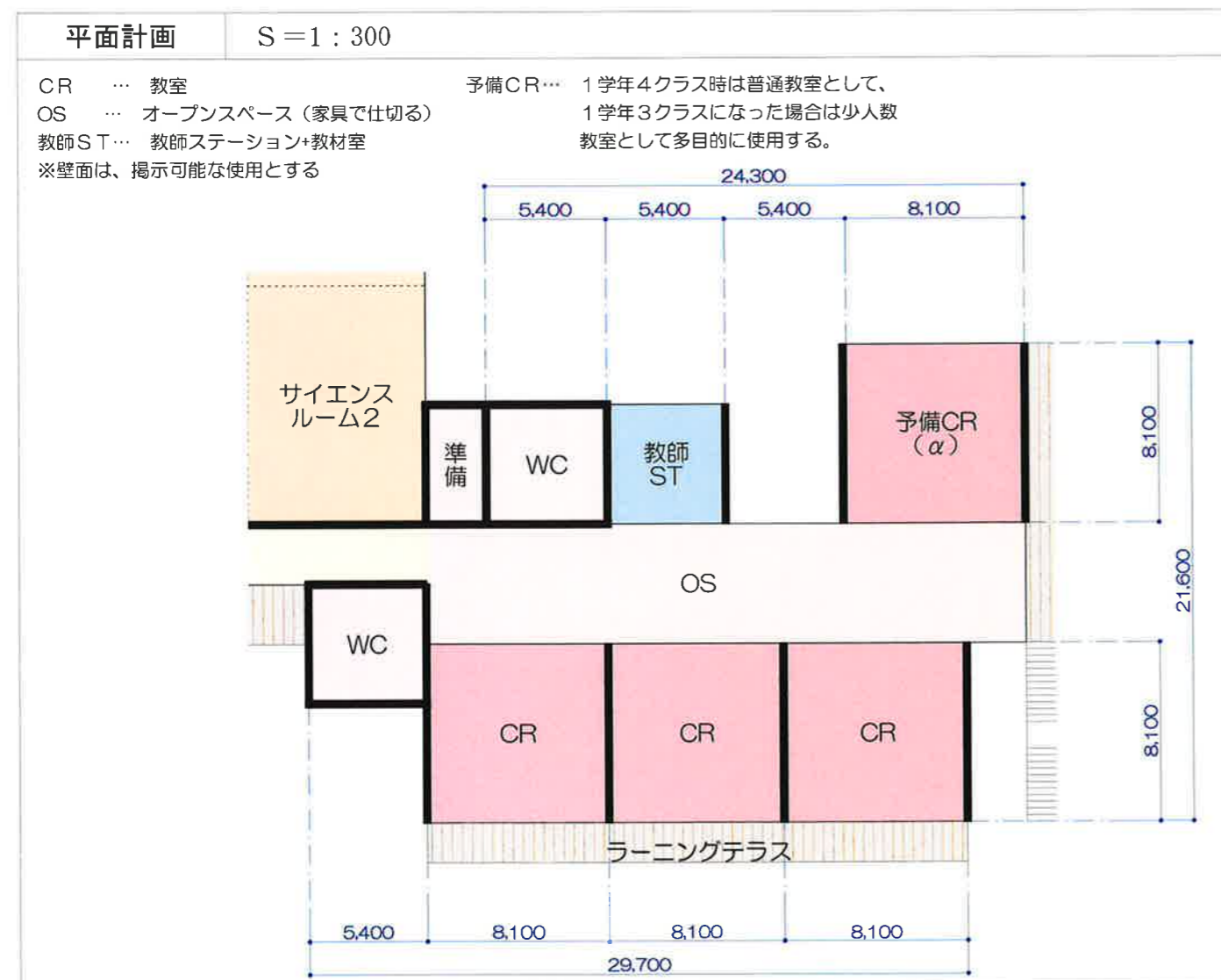
ゾーン	生活・学習ゾーン
分類	中学年
ゾーンの数	2 (3・4年生)
利用目的	-
基本方針	中高学年は授業・一般学習に加えて、グループ学習や自由学習、少人数学習等多様な学習システムに対応できるように、オープンスペースを設ける。可動式の家具で教室内を区切ることで普通教室としても対応することが可能。また、3クラスの南面にテラスを設けて、教室・オープンスペースと一体的に使用することも可能にする。
ゾーンの面積	517.59㎡



室名	普通教室	教師ステーション	WC
室数	3/学年ゾーン	1/学年ゾーン	2/学年ゾーン (男女別)
室面積	65.61㎡	29.16㎡	29.16㎡
最大定員	40名	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.4m
用途	児童の生活・学習の拠点。学校生活のホームベースになる場所。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	-
基本方針	オープンスペースと一体的な利用を前提とし、可動式の家具を配列する。	開かれたスペースとし、児童の質問や相談を気軽に受けることができる。	明るく清潔な場所とする。1学年最大160人として、便器・手洗の数を設定する。
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報
	給排水	手洗い	なし
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-
	収納	収納棚	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド 他	カーテンレール	カーテンレール
備品	机・イス	児童用机・イス×40	テーブル・イス
	収納	児童用ロッカー (40名分)	可動式収納ボックス
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド 他	カーテン	カーテン
	他	-	大型鏡
備考			

3) 高学年ゾーン

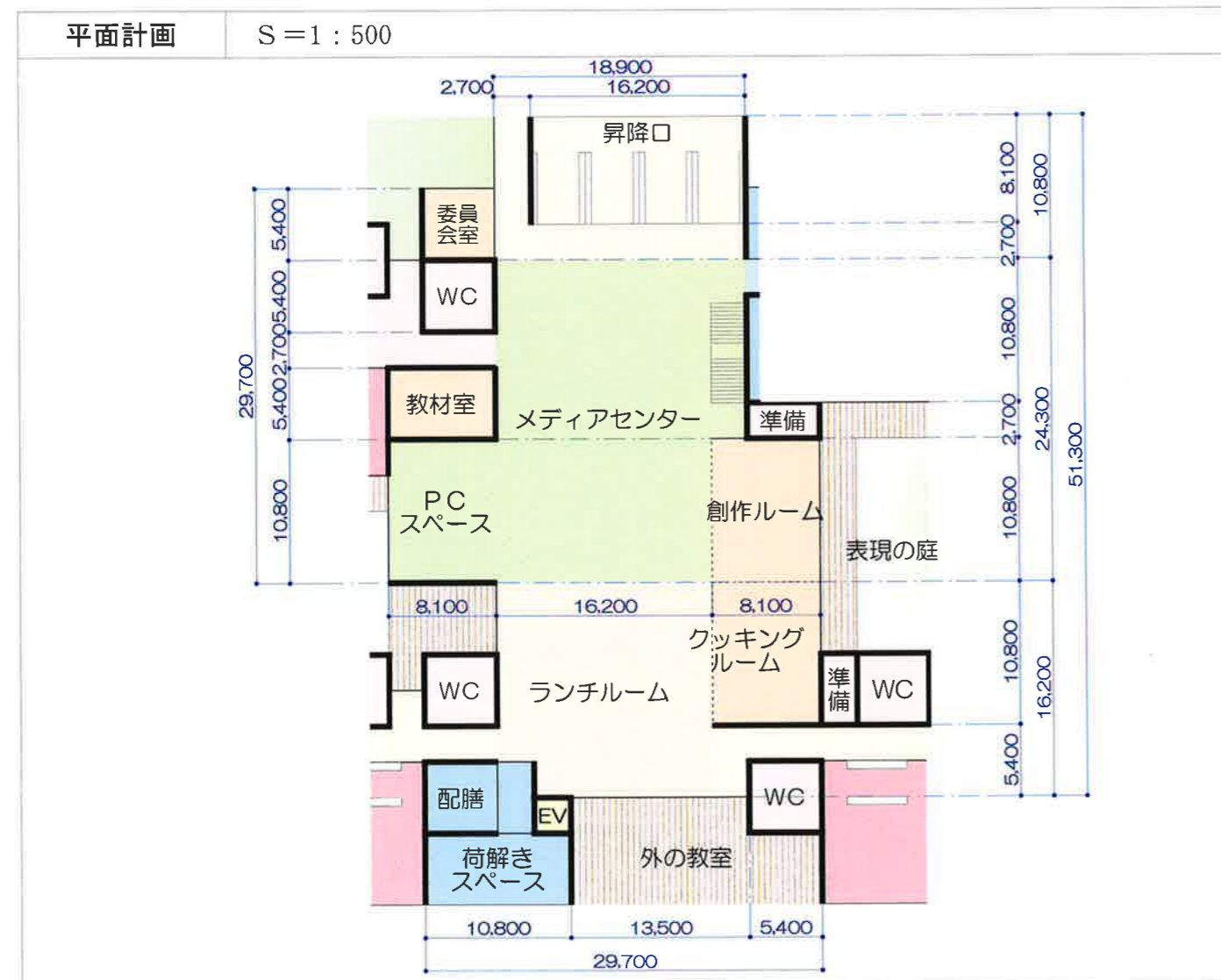
ゾーン	学習・生活ゾーン
分類	高学年
ゾーンの数	2 (5・6年生)
利用目的	-
基本方針	中高学年は授業・一般学習に加えて、グループ学習や自由学習、少人数学習等多様な学習システムに対応できるように、オープンスペースを設ける。可動式の家具で教室内を区切ることで普通教室としても対応することが可能。 また、3クラスの南面にテラスを設けて、教室・オープンスペースと一体的に使用することも可能にする。
ゾーンの面積	517.59㎡



室名	普通教室	教師ステーション	WC
室数	3/学年ゾーン	1/学年ゾーン	2/学年ゾーン (男女別)
室面積	65.61㎡	29.16㎡	29.16㎡
最大定員	40名	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.4m
用途	児童の生活・学習の拠点。学校生活のホームベースになる場所。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	-
基本方針	オープンスペースと一体的な利用を前提とし、可動式の家具を配列する。	開かれたスペースとし、児童の質問や相談を気軽に受けることができる。	明るく清潔な場所とする。1学年最大160人として、便器・手洗の数を設定する。
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報
	給排水	手洗い	なし
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-
	収納	収納棚	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	カーテンレール	カーテンレール
	他		大型鏡
備品	机・イス	児童用机・イス×40	テーブル・イス
	収納	児童用ロッカー (40名分)	可動式収納ボックス
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	カーテン
備考			

4) メディアセンター

ゾーン	学習ゾーン
分類	メディアセンター
ゾーンの数	1
利用目的	-
基本方針	学習活動の中心にあつて、“読む・話す・調べる・発表する・発信する”などの多様な活動が展開できる空間とする。 読書スペース、レファレンスルーム、PCスペースを中心に、各学年ゾーンや特別教室、多目的ホールがつながりを持った状態で配置する。メディアセンターを移動空間とすることで、子どもたちが日常的にパソコンや本に触れられる環境とする。
ゾーンの面積	1020.60㎡



室名	メディアセンター	PCルーム	教材室
室数	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン
室面積	430.11㎡	87.48㎡	43.74㎡
最大定員	-	-	-
天井高	3.6+2.7=6.3m(吹き抜け部含む)	2.7m	2.4m
用途	本・メディアを媒体に、学習やコミュニケーションの拠点となる。	パソコン操作の学習、様々な授業の情報を補完するスペース。	メディアセンター、PCルーム、ランチルームで使用する教材や家具の保管場所。
基本方針	施設の中心にあり、どこからでもアクセスできるオープンな環境にする。	開かれたスペースとし、日常的に利用できる学習空間となる。	メディアセンターとPCルームの近くに配置。
仕上	床	フローリング	カーペットタイル(フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN ・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN ・自火報
	給排水	-	-
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-
	掲示	-	ピクチャーレール
	カーテン ブラインド	-	カーテンレール
	他	-	-
備品	机・イス	閲覧机・イス・ベンチ・カウンター	テーブル・イス
	収納	書架	可動式収納ボックス
	掲示	可動式掲示板・ホワイトボード	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	カーテン
	他	可動式AVラック	-
備考	蔵書数：11,360冊以上 ※文部科学省 学校図書館図書標準による		

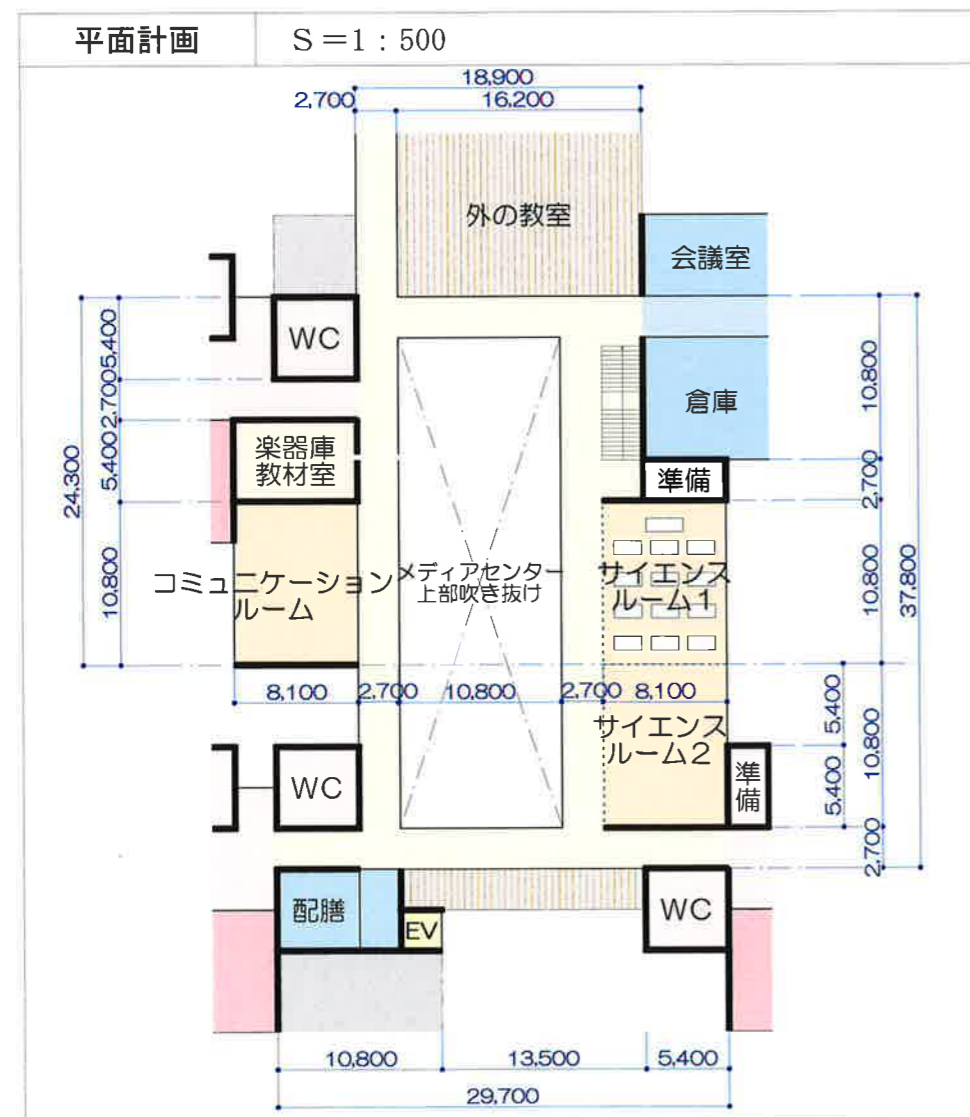


室名	ランチルーム	クッキングルーム	創作ルーム
室数	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン
室面積	255.15㎡	87.48㎡	87.48㎡
最大定員	-	-	-
天井高	6.3m (吹き抜け部含む)	2.7m	2.7m
用途	クラス・学年を超えて4クラス同時に給食を取ることでできる空間。授業の一環としても使用する多目的な空間。	調理実習での使用を基本としたスペース。ランチルームとの連携を図りながら計画する。洗濯機も設置する。	中高学年の図画工作の授業が行える空間。
基本方針	メディアスペース・クッキングスペース・外部テラスとの連携を図る。	調理を目的とした部屋。洗濯、被服等に係わる授業はランチルームや創作ルームで行うことを前提とする。	オープン空間とすることで、創作活動自体を発信する。また、表現の庭を設け、外部での創作活動・発表も行う。
仕上	床	フローリング	フローリング
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ
	給排水	手洗い・流し	給水・排水・流し
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	ホワイトボード
	収納	収納棚	食器・用具収納戸棚
	清掃用具	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	カーテンレール	-
	他	-	調理実習台 (IH) 教師用実習台
	機・イス	テーブル・イス	イス
備品	収納	-	-
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	-
	他	-	冷蔵庫・電子レンジ等の調理機器 洗濯機
	備考	全学年が対応できるような家具	-

室名	準備室	配膳室+荷解きスペース	委員会室
室数	2/学習ゾーン (1F)	2/学習ゾーン (1・2F)	1/学習ゾーン
室面積	14.58㎡	102.60(1F)+43.74(2F)=146.34㎡	29.16㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.4m	2.4m	2.7m
用途	家庭科の授業に必要な用具・器具の保管場所。 図画工作で使用する用具・材料の保管場所。	フロア毎の各クラスへの給食配膳の拠点。	-
基本方針	包丁、はさみ等を安全に保管できるものとする。 創作ルームと隣合い直接出入りできるものとする。	最大で3学年12クラスの給食当番がほぼ同時に集中する。スムーズな運搬が行える動線、ワゴンスペースを確保する。	委員会の会議・作業スペースとする。
仕上	床	ビニルシート	ビニルシート
	壁	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上
	天井	化粧石膏ボード	珪酸カルシウム板
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	-	流し・温水
	空調	換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	収納戸棚 (鍵付) / 用紙保管棚	-
	清掃用具	-	清掃用具入れ
	掲示	-	給食のディスプレイ等
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	-
	機・イス	-	-
備品	収納	-	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	カーテン
	備考	-	EVの設置 搬入時の荷解きスペース

5) サイエンスルーム・コミュニケーションルーム

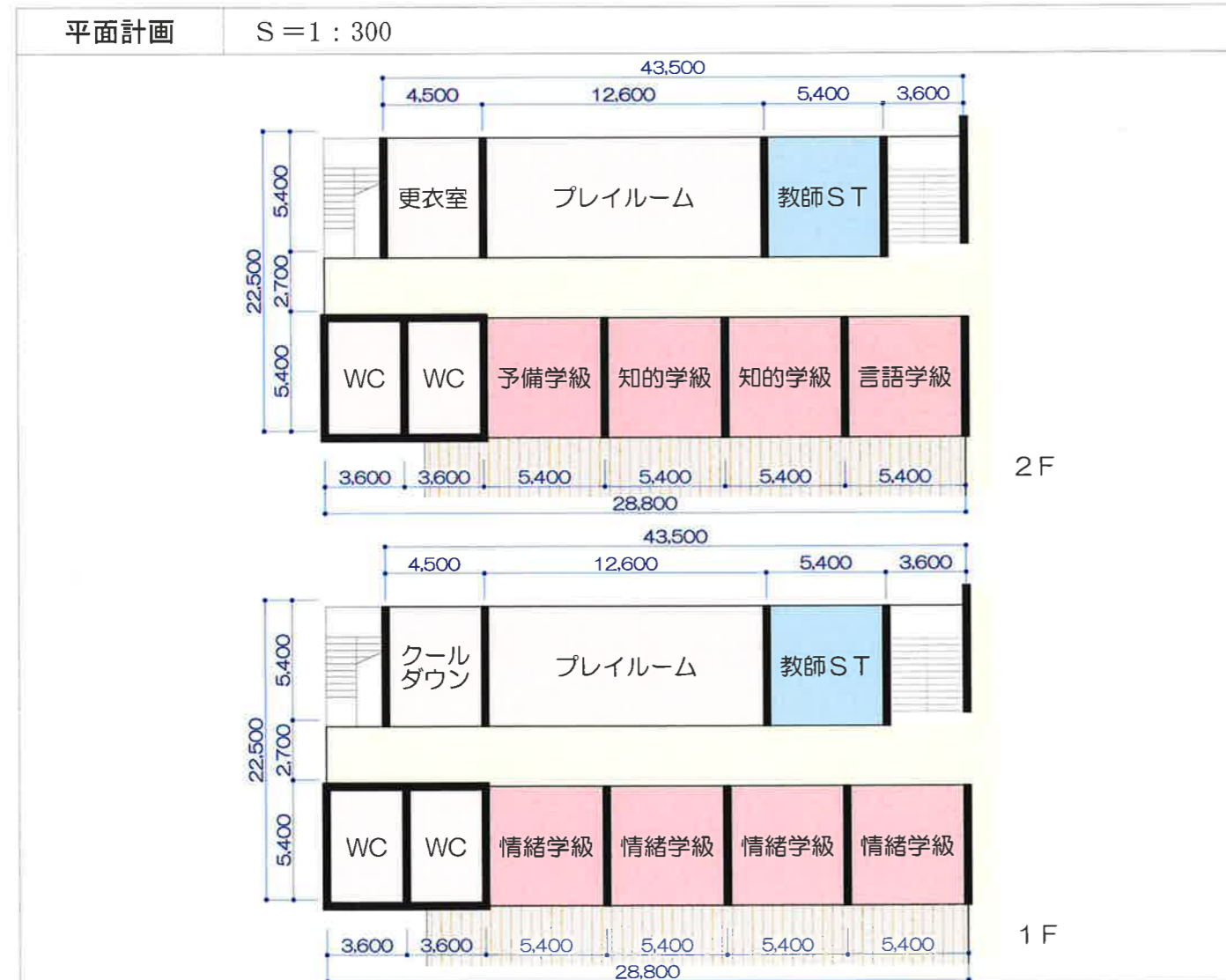
ゾーン	学習ゾーン
分類	サイエンスルーム・コミュニケーションルーム
ゾーンの数	1
利用目的	-
基本方針	メディアセンター吹き抜け上部周りに特別教室を配置する。また、北側の外の部屋では目的に応じて様々な授業展開が可能なものとする。
ゾーンの面積	670.68㎡



室名	サイエンスルーム1・2	準備室	コミュニケーションルーム	楽器庫・教材室	
室数	2/学習ゾーン	2/学習ゾーン	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン	
室面積	174.96㎡	29.16㎡	87.48㎡	43.74㎡	
最大定員	-	-	-	-	
天井高	2.7m	2.4m	2.7m	2.4m	
用途	簡易な実験・実習等の授業に使用するスペース。一体的に使用することも、2教室に分けることもできる仕様とする。	器具や薬品の保管。授業で取り扱う資料や道具を保管する。	英語教育・音楽の授業を行うスペース。	楽器の収納。音楽・英語で使用する教材の保管。	
基本方針	基本的にはオープンに使用できる。薬品を扱う実験などを行う際は、閉じることのできる仕様とする。	サイエンスルームと隣り合った位置に設け、直接出入りできるものとする。	発声したり音を出す授業が中心なため、隣接するスペースへの影響を考慮する。	-	
仕上	床	フローリング	ビニルシート	ビニルシート	
	壁	木質系仕上げ+可動間仕切り ※掲示可能な壁面	コンクリート打ち放し仕上	木質系仕上げ ※掲示可能・吸音性の高い壁面	コンクリート打ち放し仕上
	天井	岩綿吸音板	化粧石膏ボード	岩綿吸音板	化粧石膏ボード
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・自火報
	給排水	給水・排水・流し	-	流し	-
	空調	冷暖房・換気設備	換気設備	冷暖房・換気設備	換気設備
	黒板	ホワイトボード	-	ホワイトボード・五線入り黒板	楽器収納棚・収納戸棚
装備	収納	器具収納棚	器具収納棚・薬品庫	-	-
	清掃用具	清掃用具入れ	清掃用具入れ	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-	ピクチャーレール	-
	カーテンブラインド	カーテンレール	-	カーテンレール	-
	他	実験台12台(3人1組) 教師用実験台	-	-	-
備品	机・イス	イス	-	イス	-
	収納	-	-	可動式収納ボックス	-
	掲示	-	-	可動式掲示板・ホワイトボード	-
	カーテンブラインド	暗幕	-	カーテン	-
備考	ガラスで通路と仕切る	-	ガラススクリーンまたは可動間仕切り	-	
			ピアノ		

6) 特別支援ゾーン

ゾーン	学習・生活ゾーン
分類	特別支援ゾーン
ゾーンの数	1
利用目的	-
基本方針	各教室には、いすと机の他、ロッカーや手洗い、配膳台やホワイトボード等を配置する。生徒においては様々なものに興味がそれてしまうため、学習に集中できるように、出来るだけシンプルで、落ち着いたつくりとなるようにレイアウトする。 また、教師STを近接させ常に近くに大人がいる環境に計画する。 動線においても、昇降口から直接特別支援ゾーンに移動できるものとする。
ゾーンの面積	709.56㎡



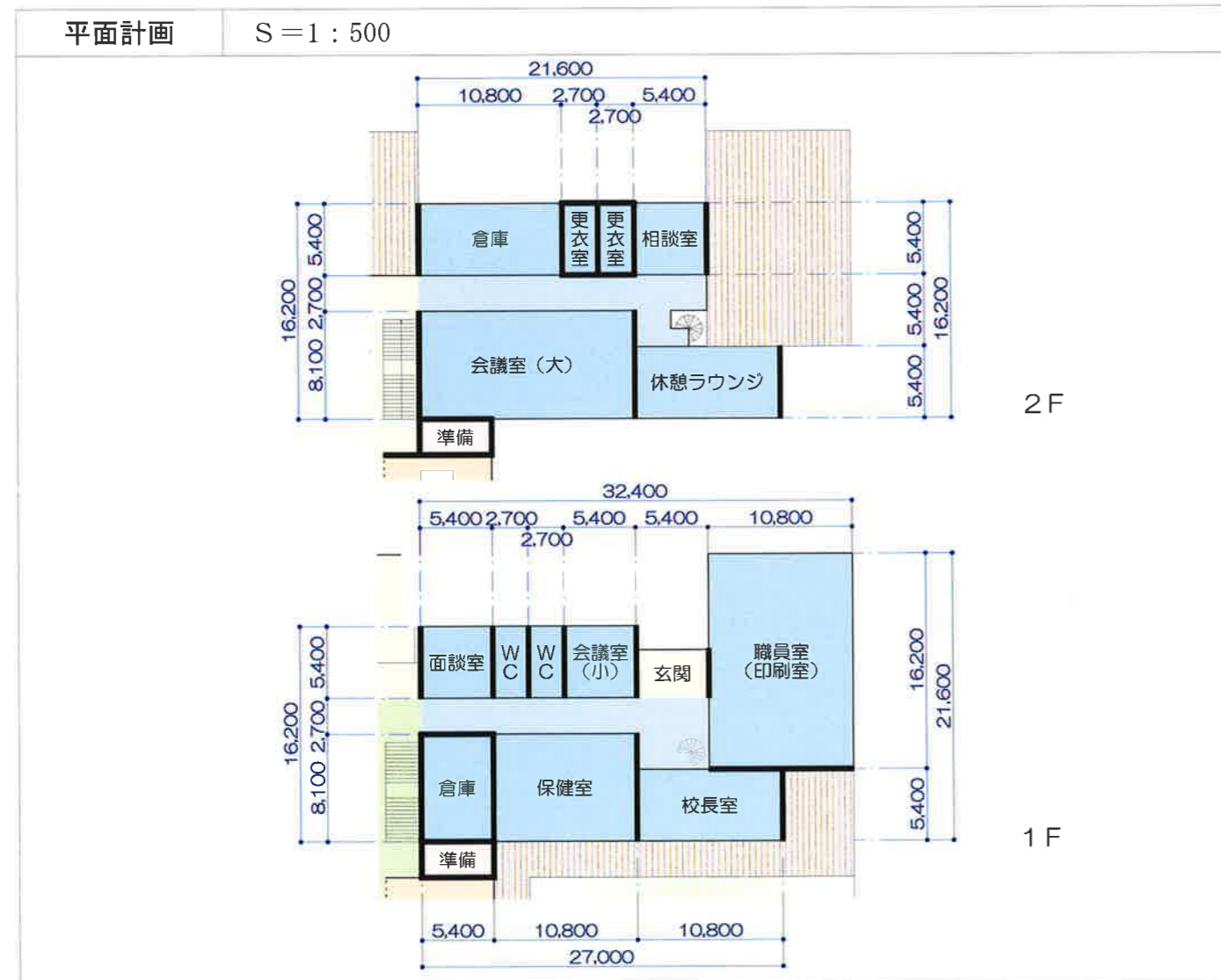
室名	特別支援学級	教師ステーション	プレイルーム
室数	8/特別支援ゾーン	2/特別支援ゾーン	2/特別支援ゾーン
室面積	29.16㎡	29.16㎡	68.04㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.7m
用途	知的・言語・情緒等、教育上特別な支援が必要な児童のための学級。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	複数のクラスでの学習や、簡易な作業、イベントなど、多様な使い方が出来る空間として計画する。
基本方針	学習・生活において気が散らないようなレイアウト・工夫を施す。	児童の出入りを把握できるように特別支援ゾーン入り口付近に設ける。	落ち着いたある清潔な場所とする。
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報
	給排水	流し・手洗い	なし
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-
	収納	収納棚	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-
	掲示	ピクチャーレール	ピクチャーレール
	カーテン ブラインド	カーテンレール	カーテンレール
備品	他		
	机・イス	児童用机・イス/教師用机・イス	テーブル・イス
	収納	児童用ロッカー	可動式収納ボックス
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	カーテン
備考			

室名	クールダウンルーム	更衣室	WC
室数	1/特別支援ゾーン	1/特別支援ゾーン	4/特別支援ゾーン(男女別)
室面積	24.30㎡	24.30㎡	29.16㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.4m	2.4m	2.4m
用途	落ち着いたある北側に配置。主に情緒学級の児童が利用するものとする。	主に情緒学級の児童が利用するものとする。	-
基本方針	落ち着いた内装とする。	明るく、通気性のよい環境とする。	明るく清潔な場所とする。広めのトイレに加えてシャワールーム・汚物流し・洗濯機置き場を設置する。
仕上	床	フローリング	フローリング
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ
	天井	岩綿吸音板	化粧石膏ボード
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	-	給水・排水・手洗い
	空調	冷暖房・換気設備	換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	-	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	カーテンレール	-
	他	-	大型鏡
			-
備品	机・イス	ソファ	-
	収納	-	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	カーテン	-
	他		
備考	言語学級には観察室を設置。 (1.8m×1.8m程度)		

室名			
室数			
室面積			
最大定員			
天井高			
用途			
基本方針			
仕上	床		
	壁		
	天井		
設備	電気		
	給排水		
	空調		
装備	黒板		
	収納		
	清掃用具		
	掲示		
	カーテン ブラインド		
	他		
備品	机・イス		
	収納		
	掲示		
	カーテン ブラインド		
	他		
備考			

7) 校務ゾーン

ゾーン	校務ゾーン
分類	校務センター
ゾーンの数	2 (1・2F)
利用目的	教師の活動・交流拠点
基本方針	子どもの登下校や来校者の出入りが把握しやすいように主たる諸室は地上階に設ける。
ゾーンの面積	1092.89㎡



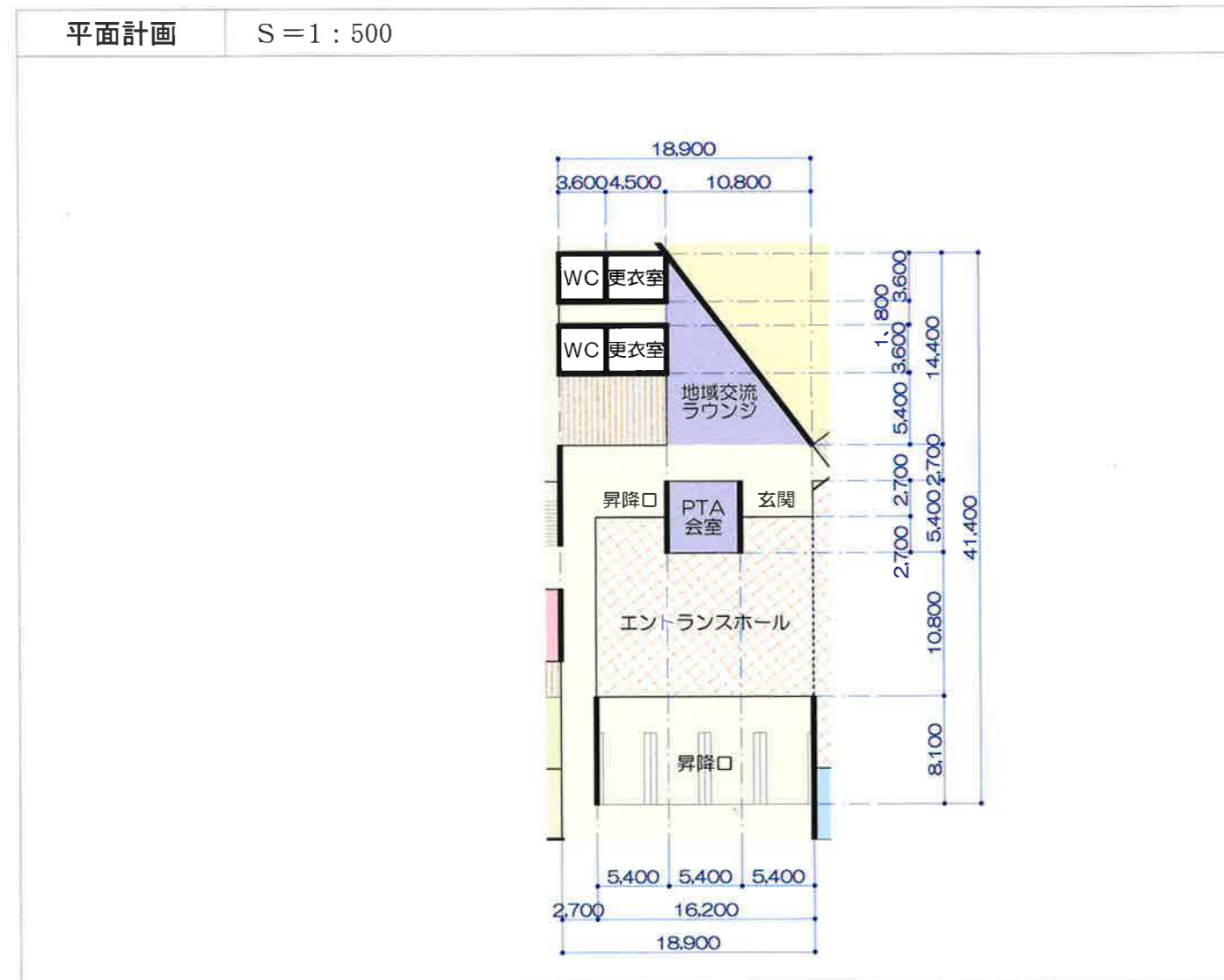
室名	職員室 (印刷室)	校長室	保健室 (+カウンセリング室)
室数	1/校務ゾーン	1/校務ゾーン	1/校務ゾーン
室面積	174.96㎡	58.32㎡	87.48㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.7m
用途	先生の活動拠点となる。また、印刷室・放送室を併設する。	来客時の応接室としても使用できるものとする。	児童の健康管理・病気や怪我の手当てを行う。また、室内にはWC・シャワーを設置する。
基本方針	運動場・昇降口などの外部の様子が見渡せ、校舎内各所への移動が容易な位置に設ける。	職員室に隣接させる。職員室と廊下の両方から出入りできるものとする。	外部から直接出入りできる出入り口を設ける。明るく落ち着いたインテリアとする。
仕上	床	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ
設備	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・TEL・自火報・放送卓・総合防災盤	照明・コンセント・TV・無線LAN・TEL・自火報
設備	給排水	手洗い	給湯・給水・排水・シャワー・汚物流し
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
備品	黒板	行事予定ホワイトボード	ホワイトボード
	収納	収納棚	書類収納棚・ロッカー
備品	清掃用具	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	掲示板	掲示板・ピクチャーレール
備品	カーテン ブラインド	カーテンレール	カーテンレール (ベッド廻り)
	他	-	洗面化粧台
備品	机・イス	ワーキングテーブル・イス×40~50	ワーキングテーブル・イス
	収納	書類キャビネット・職員用ロッカー	応接イス・応接テーブル
備品	掲示	-	可動式パーティション
	カーテン ブラインド	カーテン	カーテン
備考	他	コピー機・印刷機	収納式ベッド×3
	-	-	治療用長いす・診察台
備考	-	-	計測機器
備考	-	-	外部テラスに足洗い設置

室名	休憩ラウンジ	会議室（大）	会議室（小）	
室数	1/校務ゾーン	1/校務ゾーン	1/校務ゾーン	
室面積	58.32㎡	131.22㎡	29.16㎡	
最大定員	-	-	-	
天井高	2.7m	2.7m	2.7m	
用途	職員に休憩・談話スペース。 給湯室を兼ねる。	職員会議等の各種会議を行うスペース。	-	
基本方針	職員同士のコミュニケーションが取りやすいように掲示板やキッチンを装備する。	全体会議を行えるようにする。職員全員が収容できるスペースを確保。	個人面談や少人数で行われる打合せ等で使用する。相談室・面談室との併用も考慮する。	
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)	フローリング
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ	木質系仕上げ
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報
	給排水	給湯・給水・排水	-	-
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-	-
	収納	収納棚	-	-
	清掃用具	-	-	-
	掲示	-	ピクチャーレール	ピクチャーレール
	カーテン ブラインド	カーテンレール	カーテンレール	カーテンレール
	他	システムキッチン	-	-
	-	-	-	-
備品	机・イス	テーブル・イス	長テーブル・イス	テーブル・イス
	収納	食器戸棚	-	-
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	カーテン	カーテン
	他	冷蔵庫・電子レンジ	-	-
備考	-	-	-	
-	-	-	-	

室名	倉庫	職員用WC	玄関	
室数	2/校務ゾーン（1・2F）	2/校務ゾーン（1・2F）	1/校務ゾーン	
室面積	102.06㎡（1・2F合わせて）	14.58㎡	19.44㎡	
最大定員	-	-	-	
天井高	2.4m	2.4m	2.7m	
用途	学校の資料関係や備品を保管するスペース。	-	-	
基本方針	整理しやすいようなレイアウトにする。また、書庫としての機能も果たす。	来客用WCも兼用する。また、多目的WCを備える。	職員・来客用玄関。	
仕上	床	ビニルシート	フローリング	磁器質タイル（乾式）
	壁	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上
	天井	化粧石膏ボード	化粧石膏ボード	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	-	衛生器具（洋式トイレ）	-
	空調	換気設備	換気設備	換気設備
装備	黒板	-	-	-
	収納	収納戸棚（鍵付）/用紙保管棚	-	下足入れ
	清掃用具	-	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-	-
	カーテン ブラインド	-	-	-
	他	-	鏡	傘立て・大型鏡
	-	-	-	-
備品	机・イス	-	-	-
	収納	-	-	-
	掲示	-	-	-
	カーテン ブラインド	-	-	-
	他	-	-	-
備考	-	-	-	
-	-	-	-	

8) 昇降口・地域交流

ゾーン	地域・共用ゾーン
分類	昇降口・地域交流
ゾーンの数	1
利用目的	-
基本方針	校舎内（校務ゾーンを除く）の出入り口を1つのゾーンに集約する。児童・特別支援学級・地域解放時の来校者の昇降口を個別に持ちながらも、1つのゾーンに集約し、この学校施設の顔としての役割を果たす。このエントランスホールは半外部空間とし、イベント等の際に全校児童が集まれるような場とする。
ゾーンの面積	741.96㎡



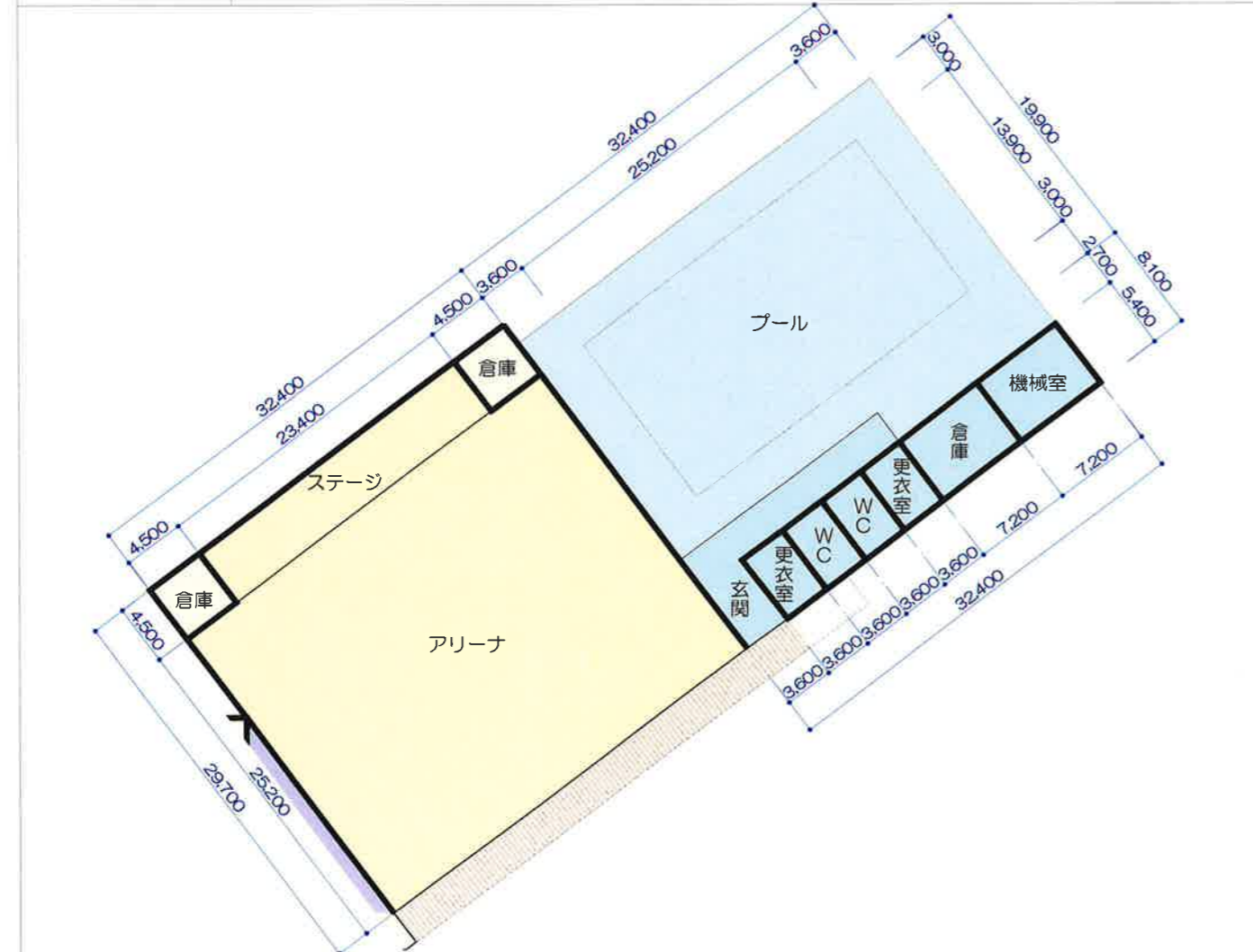
室名	昇降口・昇降口(特別支援)・玄関	P T A会室	地域交流ラウンジ
室数	3 / 昇降口	1 / 地域交流ゾーン	1 / 地域交流ゾーン
室面積	-	29.16㎡	77.76㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.7m
用途	学校の玄関。半外部のエントランスホールは、雨天時には全校集会も行える。	P T Aの会合・作業のためのスペース	地域の方の打合せや作業等で使用する。また、地域の方同士や地域の方と児童の団欒スペース。
基本方針	児童・特別支援学級・地域解放時の来校者の昇降口は分けて、地域開放の際には他のゾーン出入りできない処置を講じる。	玄関に近く、保護者が出入りしやすい位置に設ける。	玄関近くにオープンなスペースとして配置する。統合する7校のメモリアルホールでもある。
仕上	床	磁器質タイル(乾式)	フローリング
	壁	コンクリート打ち放し仕上	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報
	給排水	-	-
	空調	換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	下足入れ	収納戸棚
	清掃用具	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	カーテンレール
	他	傘立て	-
備品	机・イス	-	テーブル・イス
	収納	-	-
	掲示	-	可動式ホワイトボード
	カーテン ブラインド	-	カーテン
	他	-	-
備考	-	-	-

9) 体育館・プール

ゾーン	運動施設ゾーン
-----	---------

分類	体育館・プール
ゾーンの数	1
利用目的	体育の授業・地域開放
基本方針	体育の授業の際に移動がスムーズになるような動線を考慮する地域開放をする際には、校内のほかの部分と区画ができる処置を講じる。
ゾーンの面積	517.59㎡

平面計画	S=1:500
------	---------



室名	アリーナ・ステージ	倉庫	
室数	1/体育館ゾーン	2/体育館ゾーン	
室面積	921.78㎡	20.25㎡	
最大定員	-	-	
天井高	10.8m	2.4m	
用途	体育の授業。 地域開放。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	
基本方針	大勢の人数が移動する際に対応できるような動線を確保する。また、体育館で発生する音に対して考慮する。	開かれたスペースとし、児童の質問や相談を気軽に受けることができる。	
仕上	床	フローリング（鋼製床下地）	ビニルシート
	壁	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上
	天井	グラスウールボード	コンクリート打ち放し仕上
設備	電気	照明・コンセント・無線LAN・自火報・放送卓・放送機器	照明・コンセント・自火報
	給排水	-	-
	空調	換気設備	換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	-	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	暗幕	-
	他	イス収納台車・舞台装置	-
		防球ネット	-
備品	机・イス	パイプイス	-
	収納	-	-
	掲示	-	可動式ホワイトボード
	カーテン ブラインド	-	-
	他	スクリーン	-
	-	-	-
備考	ステージ（暗幕あり）	-	-
	-	-	-



室名	プール	玄関	更衣室
室数	1/プールゾーン	1/プールゾーン	2/プールゾーン
室面積	-	29.16㎡	19.44㎡
最大定員	-	-	-
天井高	-	2.4m	2.4m
用途	-	-	-
基本方針	25m6コースを用意する。 プールサイドは適切な広さを確保する。	-	明るく清潔な場所とする。
仕上	床	タイル、塗床	タイル（乾式）
	壁	-	コンクリート打ち放し仕上
	天井	-	コンクリート打ち放し仕上
設備	電気	-	照明・コンセント・自火報
	給排水	シャワー・循環ろ過設備	-
	空調	-	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	-	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	大型鏡
	-	-	-
備品	机・イス	-	-
	収納	-	ロッカー
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	-
備考	シャワーコーナー	-	-
		-	-

室名	WC	倉庫	機械室
室数	2/プールゾーン	1/プールゾーン	1/プールゾーン
室面積	19.44㎡	38.88㎡	38.88㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.4m	2.4m	2.4m
用途	-	コースロープ・ビート板等、 授業で使用する用具の保管。	-
基本方針	更衣室に併設する。	プールサイドに面して設ける。	-
仕上	床	タイル（乾式）・塗床	塗床
	壁	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上
	天井	珪酸カルシウム板	珪酸カルシウム板
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	衛生機器（洋式トイレ）・手洗い	なし
	空調	換気設備	換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	鏡	-
	-	-	-
備品	机・イス	-	-
	収納	-	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	-
備考	-	-	-
	-	-	-

---

## 6. 構造計画

### (1) 構造種別の比較検討

## 6. 構造計画

### (1) 構造種別の比較検討

- ・ 構造種別を以下のように比較し、コンクリート造を基本とした計画とします。

種類		RC造		鉄骨造	
コスト (直接工事費)	躯体	80,000円/㎡		65,000円/㎡	
	仕上	80,000円/㎡	外部 40,000円/㎡	95,000円/㎡	外部 55,000円/㎡
			内部 40,000円/㎡		内部 40,000円/㎡
	電気設備	25,000円/㎡		25,000円/㎡	
	機械設備	35,000円/㎡		35,000円/㎡	
合計	220,000円/㎡		220,000円/㎡		
法令への 対応	防火区画	○	壁はRC壁でよく、他の壁との取合いが単純である。 開口部の防火戸、防火シャッターは、RC躯体に取付けることで、納まりが単純になる。	△	壁は乾式となり、鉄骨との取合い部等が複雑になる。取合い部の隙間は、ボードやロックウール等で塞ぐ必要がある。 開口部の防火戸、防火シャッターは、鉄骨に取り付けても区画が完結しないので、ボードやロックウール等で隙間を塞ぐ必要がある。
	防火上主要な 間仕切	○	RC壁としても、乾式の壁としても、RC壁に接すれば完結するので、納まりが単純である。	△	防火上主要な間仕切り壁と、鉄骨との取合い部等で、納まりが複雑になる。
防衛省防音補助 工事への対応 (防音3級の場合)	躯体	○	120mm厚以上のRC壁でよい。	△	RC造と同等の防音性能を確保するためには、厚60mm押出成形セメント板、厚50mmグラスウール、厚50mm空気層、厚12mm石膏ボードと4層の層構成が必要である。
	開口部	○	防音サッシ(3級用)を設ける。	△	防音サッシ(3級用)となるが、RC造用のサッシしかないため、役物が必要となり、コスト増になる。
メンテナンス の容易性	外壁	○	外壁は一体的で、取合い部が少ないため、漏水可能性が低い。	△	外壁が乾式となり、シーリング取合いが多い。